

会報神奈川

令和4年10月15日
発行責任者
会 長 守 屋 隆 広
〒 210-0846
川崎市川崎区小田 2 - 14 - 7
電 話 : 044 (333) 1046
<http://www.k-jinja.jp/seinenkai/>

創立七〇周年記念号



神宮奉告参拝旅行にて



神奈川県神道青年会

生見八十綿連



創立七〇周年記念会報発刊に当たって

神奈川県神道青年会 第二十八代会 長 守 屋 隆 広

先ず以て、聖寿の萬歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げます。また、神宮におかれましても諸祭恙なく斎行されておられますこと慶賀に存じ上げます。

稲田が金色に波打つ実りの季節、神奈川県神道青年会創立七〇周年記念事業最後となります記念会報の発刊を迎える事となり、令和二年二月頃より蔓延しはじめた新型コロナウイルス感染症の影響を受け、予定を大きく上回る三年間に及ぶ周年事業運営も茲に完遂する運びとなりました。

これも偏に、記念会報発刊にあたりご祝辞を頂戴致しました神奈川県神社庁前庁長 吉田茂穂様、神道青年全国協議会会長 小林慶直様をはじめ、県内神社関係者各位、今日まで当会の発展にご尽力いただいております先輩諸賢、関係諸団体の皆様のおかげと、衷心より厚く御礼申し上げます。誠に有難うございます。

記念会報においては、歴代会長に座談会をお願いを致したところ、参会の難しい時世にあっても次世代の若者の為にとご快諾いただき、現役会員の知らない過去の活動や当会への熱い思い等、多くの学びを得る事ができました。また、会員各位が一生懸命取り組んで参りました事業構築については、周年事業の実行中止にかかわらず、時間と労力を惜しむ事無く形作った足跡を皆様にご高覧いただければと掲載しております。

当会七〇周年の節目に、「生児八十綿連くうみのこのやそつづき」の思いのもと、事業を描き実行に移すために会員総出で様々に協議を重ねて参りましたが、半数の事業が道半ばで中止という苦渋の決断となりました。しかしながら、コロナ禍で仲間との時間が如何に有意義であるかを改めて知る事ができました。

記念会報を見ますと、各種周年事業担当者が時間をかけて作り上げてくれた様子が目に浮かび、感謝の念しかございません。順風に進まなかったこの時間も、これから先、笑顔で思い出として語れる日がくる事を祈りつつ、ご支援ご協力を賜りました皆様に感謝申し上げます。

令和四年十月十五日

記念大会中止に当たったの案内状原文

先ず以て、聖寿の萬歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げます。

また、神宮におかれましても諸祭恙なく斎行されておられますこと慶賀に存じ上げます。

さて、本来であれば神奈川県神社庁 庁長 吉田茂穂様をはじめ県内神社関係者各位、今日まで当会の発展にご尽力いただいております先輩諸賢、神道青年全国協議会 会長 小林慶直様をはじめ神青協一都七県協議会同志のご臨席を賜り、神奈川県神道青年会創立七〇周年記念大会を会員各位と共に熱い思いをもって開催する予定でございました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の猛威は収まらず、更には新たなウイルス株へと変異を続けており、感染者数や病床の逼迫度、医療関係者各位の現状など様々な情報を見ますと、県内の世情は厳しい内容ばかりとなっております。そのような中で、ご来賓はもとより会員各位の安全を担保する事が難しいと判断し、このたび皆様にご案内をお届けしたにもかかわらず、大変申し訳ございませんが神奈川県神道青年会創立七〇周年記念大会開催を中止とし、一方通行の映像配信にて御礼並びに周年事業報告をさせていただきますご無礼をお許しただきたくお願い申し上げます。

先ず、本周年事業に際しましては、多大なるご支援とご高配を賜りました事、会を代表し衷心より厚く御礼申し上げます。

令和二年二月頃から蔓延し始めた新型コロナウイルス感染症は、一年半以上経過した今も収まる事が無く、本周年において予定していた事業の多くがこの期間と重なり、縮小・中止を余儀なくされました。

当会の歩みを顧みますと、戦後の混迷未だ治まらぬ、昭和二十四年九月二十五日、初代市川和夫会長はじめ二十余名の先輩方が集結し、祖国の再建と神道興隆を掲げ神奈川県神道青年会が発足致しました。爾来、激動の世の中にあつて、歴代の会長を中心に会員同士が研鑽を積み重ね、様々な時局問題に果敢に挑み、活路を開き、斯界のみならず神奈川県の未来を明るく照らし続けて参りました。

創立から七十年の月日が経ち、このような先輩方の足跡を顧み、本周年を機にこれまでの伝統を発展させ、次世代へ継承する事を決意し、活動主題には「生児八十綿連うみのこのやそつづき」と掲げて事業構築を行って参りました。

先輩方の血の滲むような努力を考えますと、現在のこの状況は決して難しくないとの強い思いをもって各事業を進めてまいりました。神宮への奉告参拝や顔写真入り神職手帳の発刊、天皇陛下御即位奉祝パネル展の開催など今出来る事を妥協することなく行い、歌会始めの詠進については、本年、神道青年全国協議会のご協力もあり全国の青年会へ詠進の輪が広がりました。しかし、残念な事に、創立七〇周年記念大会をはじめ海外慰霊祭「インド・インパール戦没者慰霊祭」・青少年育成事業「子供神社体験学習」・単身者結婚促進事業「お宮逢ひ」は中止という苦渋の決断を、また神奈川県戦没者慰霊祭は規模縮小となりましたが、本周年事業の準備にあたっては、次世代を担う会員に主軸となり活躍いただき、熱い思いを繋ぐことが出来たと確信致しております。

これも偏に神奈川県神道青年会の活動に対し、「青年会員がんばれ」と背中を押して下さる皆様、そして共に歩みを進めて下さる同志の

皆様のお陰と重ねて感謝申し上げます。

本年は、新型コロナウイルス感染症が蔓延するものではございましたが、東京オリンピック・パラリンピックが行われ、日本人選手の活躍に心躍る時間を過ごすことが出来ました。特に十代の若い選手の活躍には、日本の未来は明るいと思わせる魅力があり、次の神奈川県神道青年会創立七十五周年や八〇周年には、この世代が神奈川県神道青年会に入会し、更なる伝統と変革の融合をもたらしてくれるのではないかと期待に胸膨らむところでございます。

新型コロナウイルス感染症により、人と人との繋がりを直接肌で感じる事が難しくなったこの社会情勢だからこそ、神と人との繋がりと人との繋がりを大切にし、青年神職らしく快活な行動で人の輪を広げ、先輩諸賢と同じように未来を明るく照らす為に今後も努力して参ります。

神奈川県神道青年会七〇周年という佳節に会長兼実行委員長という大役を仰せつかりながら、皆様のご期待にお応えすることが出来ず、自らの無力を痛感しております。皆様から賜りましたご支援につきましては、信頼する次代の会員に思いと共によりと繋いでいく事をこの場にてお約束致します。

残す事業も神奈川県神道青年会創立七〇周年記念会報の発刊のみとなります。最後の事業完遂まで気を緩めることなく取り組み、皆様のお手元により良い記念会報をお届けできるよう尽力して参ります。

十月十五日より当日P上において、本周年事業で実行できた天皇陛下御即位奉祝パネル展や神奈川県戦没者慰霊祭などを中心に、神奈川県神道青年会創立七〇周年事業報告動画を公開致します。最後までご覧いただけますと幸いです。本周年事業内では慰霊祭を執り行う事は叶いませんでしたが、インド・インパールに於いて、我々の思いに賛同し、慰霊祭執行にむけて様々にお力添えをいただいております。インパール平和資料館館長のジョイレンバ氏からもメッセージを頂戴しておりますので、併せてご覧ください。

社会情勢が混沌とする中にあっても、我々青年神職が活動を出来す事は、斯界の尖兵として先輩諸賢が築き上げて来られた活動あつての事でございます。この感謝の思いを胸に、これからは斯界の尖兵として出来る事を模索実行し、斯界発展の為、神奈川県神道青年会の伝統と熱き思いを繋ぐ為、邁進して参ります。

皆様には、今後も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

また、会員各位には多くのご協力をいただきながら、神奈川県神道青年会創立七〇周年記念大会がこのような形となり、心よりお詫び致します。しかし、青年会活動はこれからも続いて参ります。どうか、今後も共に歩んでいただき、積極的なご参加をお願い致します。

結びに、皆様の御社頭の弥栄と、関係各位のご健勝ご多幸、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を祈念申し上げ、神奈川県神道青年会創立七〇周年記念大会中止ご案内に際しての挨拶とさせていただきます。

令和三年九月十八日

神奈川県神道青年会創立七〇周年 会報記念号

目次

祝 辞	神奈川県神社庁 前庁長 鶴岡八幡宮 宮司 吉田 茂穂……………	6
祝 辞	神道青年全国協議会 会長 小林 慶直……………	7
創立七〇周年記念感謝状贈呈者御芳名	……………	8
歴代会長座談会	……………	
「此の二十年を振り返って」	……………	9
歴代会長名簿	……………	27
神青協出向歴代役員名簿	……………	28
創立七〇周年記念事業	……………	
神宮奉告参拝旅行	……………	29

神奈川県戦没者慰霊祭	30
結婚促進事業「お宮逢ひ」	31
平和の祈りinインパール	32
天皇陛下御即位奉祝パネル展「令和の祈り」	34
天皇陛下御即位奉祝事業「歌会始詠進」	36
創立七〇周年記念大会	37
こども神社体験学習	40
顔写真入り神職手帳	41
会報「神奈川」創立七〇周年記念号	41
創立七〇周年記念事業を終えて	42
記念事業実行委員会組織図	43
収支中間報告	44
協賛者御芳名	45
編集後記	

祝 辞

神奈川県神社庁 前庁長
吉田 茂穂



神奈川県神道青年
会の設立七〇周年を
祝して一言御挨拶を
申し上げます。

顧みますれば、昭
和二十一年四月一日
に祭祀研究同志会を
母体として、初代の

神奈川県神社庁長・鶴岡八幡宮宮司の座田司氏氏が会長となり、貴
会の前身となる青年会が結成されました。結成と同時に被災者や遺
族の慰問や募金を行うなど、当初より積極的な活動を行われていた
と伺っております。

その後、昭和二十四年六月十六日に全国組織となる神道青年全国
協議会が結成され、これに呼応する形で同年九月二十五日に改めて
県神道青年会の発会式が行われました。

当時、県下の神職数二百五十五名のところ、貴会の会員数は約半
数にあたる百二十名を数えたといった記録が残ります。このことも
創成期を担った先輩諸兄の先見の明や多大なる御尽力によるもの
と、心から敬服致します。

扱、その後も「会員相互の研修と親睦を図り、神社神道の興隆に
寄与する」という目的のもと、時宜に合ったテーマによる研修会を

始め、裨益成会、毎年の稲作体験といった会員相互の連携を図るた
めの事業などを開催されています。また、一般に対しては、青少年
健全育成のための教化事業や、皇室敬慕の念の醸成や神宮奉賛活動
の他、震災復興や領土問題解決を目的とした企画など教化活動にも
鋭意取り組まれて参りました。

その中でも特筆すべきは、震災等の災害時における復興支援活動
です。これまでも阪神淡路大震災や東日本大震災などの復興支援に
あたって、青年神職として機動力を活かしたボランティア活動を行
われました。県内においても、一昨年十月に発生した台風十九号に
よる浸水被害地において清掃活動を奉仕するなど、災害時の迅速な
取り組みは、神社庁としても非常時における対応など参考にしなけ
ればならないと感じております。

また、平成二十六年八月、貴会会員も奉仕した硫黄島における戦
没者慰霊祭、戦後七十年の節目として、平成二十七年七月、県慰霊
堂にて全ての御霊に感謝と慰霊の真心を捧げるべく行われた県戦没
者慰霊祭など、祖国を愛する熱意に溢れた貴会の活動は、設立以来、
斯界の尖兵としての気概を体現するものと言っても過言ではありま
せん。

この他、早い時期からインターネットを活用した教化活動や、昨
今ではフェイスブックを活用した情報発信や、オンラインでの会議
や研修会の開催といった取り組みは、斯界に新たな風を吹き込むも
のであり、情報化社会への対応を促すこととして期待しています。

今後、神道青年の諸活動に對しまして、尚一層の御理解・御協力を
賜りたく、この場をお借りしてお願い申し上げます。

結びにあたり、貴会の更なる御発展と、会員各位の御健勝と御活
躍を心よりお祈り申し上げて祝辞とさせていただきます。

祝
辞

神道青年全国協議会 会長 小林 慶 直



の諸活動に対し、日頃より特段のご理解とご協力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

貴会が創立以来、常に青年神職としての誇りと見識を持って、積極的に活動を展開して来られましたことに對し、深甚なる敬意を表しますとともに、この節目の年に際し、先輩諸賢が積み重ねられた活動などを取り纏めて記念会報を刊行されますこと、誠に意義深いことと存じ上げ、慶賀に堪えません。

貴会におかれましては、終戦後の未曾有の混乱の中、神宮を本宗とする神社神道の究明宣布に各々其の最善を尽くすことを目的に集い、昭和二十四年に発足されてより七十年、高い志と行動力を以て、斯界の尖兵として積極的な活動を続けて来られました。

令和二年の新型コロナウイルス感染症拡大により、各地の祭礼も規模縮小・中止を余儀なくされて一年以上が経ちますが、いまだに

見通しが立ちません。国内情勢はもとより世界の先行きは混沌とした中にある、人々の価値観と生活の在り様が劇的に変化し続ける今、我が国にとっても、神青協にとっても大きな節目を迎えております。

貴会はコロナ禍にあり、これまでの一同に会しての活動が困難になる中、計画中のいくつもの周年事業の延期・中止という判断を迫られた中におかれまして、初志貫徹の精神のもと神奈川県慰霊堂戦没者慰霊祭の斎行、歌会始め詠進事業、御即位奉祝パネル展なども感染症対策を講じて開催。記念大会に際しましては、安全を配慮し直前に中止の判断となりましたこと誠に残念ではありますが、恒例行事もウェブを活用し今だからできること、今やなくてはならないことを模索・挑戦し活動を展開されていると伺っており、困難に立ち向かうその姿に敬意を表します。この新型コロナウイルスによって我々の生活様式も大きく変化が生じております。この時代の波に取り残されない為に、これまでの事業・慣例をいまの時代に沿った形にすべく、本質を変えずに新たな手段を模索し様々な事業が実現できますことを期待するところであります。

今回の疫病による災害を始め、今後も予想できない様々な困難に直面することと思います。その危機に私達は先人の思いを受け継ぎ、一致団結して我が国の美しい伝統・文化の灯を絶やさぬよう、守り伝えて参りましょう。

結びに創立七〇周年といふ大きな節目を機に貴会益々のご発展を願ひ祝辞とさせて頂き戴きます。

神奈川県神道青年会

創立七〇周年記念 感謝状贈呈者御芳名

角井 瑞 日枝神社宮司

根岸 浩行 村富神社宮司

守山 和宏 曾屋神社禰宜

栗原 拓見 五社神社禰宜

長嶋 信博 御神田御協力人



神奈川県神道青年会 《歴代会長座談会》

「此の二十年を振り返って」

★出席者

現	第二十七代会長	第二十六代会長	第二十五代会長	第二十四代会長	第二十三代会長	第二十二代会長	第二十一代会長	第二十代会長	第十九代会長	第十八代会長
会	川	小	古	佐	瀬	守	根	永	宮	小
長	守	屋	辺	澤	木	野	尾	山	岸	井
	隆	浩	篤	普	剛	和	浩	武	佳	和
	広	司	至	総	巖	良	宏	行	義	昭
	一									伸

★司会

松 尾 寛 一

日時：令和四年五月十八日(水)

会場：鶴岡八幡宮直会殿



司会 本日は、歴代会長の皆様にはお集まり戴きまして誠にありがとうございます。本日の座談会は周年事業の最後となる記念会報のメイン企画として掲載させて頂くつもりでございますが、五〇周年以前のもは過去の記念誌や会報などに記録されておりますので、本日は五〇周年以降の話を中心に伺わせて戴きたいと考えております。皆様の会長在任中の主立った行事や様々な思い出話などを懐かしく語って戴ければ幸いに存じます。では最初に、現会長の守屋隆広より御挨拶を申し上げます。

守屋 失礼致します。先ずは第十八代会長小野和伸先輩をはじめ、歴代会長の皆様方に公私ともに大変お忙しい中、お集まり戴きましたことに心より感謝を申し上げます。創立七〇周年の節目を迎えましたが、同時にコロナ禍という非常に難しい問題にも直面し、残念ながら実施出来なかった周年事業も幾つかある中、可能な限りの事業を会員一同力を合わせて遂行して参りました。先程、司会の松尾副会長が申し上げた通り、記念会報へ歴代会長による座談会を掲載させて頂きましたが、創立五〇周年記念誌の際も鶴岡八幡宮様の社務所と同じように座談会が開かれたと伺っております。本日も鶴岡八幡宮様の御厚意を頂きまして、このように会場をお借りしております。せっかくの機会でございます。ざっくりばらんに二十年間のお話を色々とお伺い出来ればと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。(拍手)

司会 さて、今回の座談会を開催するに当たりまして、五〇周年記念誌を参考資料として拝見させて頂きました。この五〇周年の記念誌には、非常に多くの創立以来の資料が掲載されており、神奈川県神道青年会の歴史を知るという意味で大変貴重なものとなっております。私個人の見解にはなりますが、この五〇周年の前後のタイミングで、当会の様々なものが整備ないし整理されていたように感じております。五〇周年記念誌に記載された座談会の内容では当時より過去二十年について振り返られておりますが、今では考えられないような意義ある事業などが積極的に行われております。青年会として隆盛の時代と言いましようか。そしてこの創立五〇周年から今日までは、この当時に企画された幾つかの事業も今もなお継続されていて、また会員も一時二

百名に達しようかという時期もあり、より充実かつ安定した二十年であったように感じております。それでは早速ではありますが、そのような創立五〇周年あたりのお話を含め、小野先輩より当時の青年神職や神社界の時代背景とともに聞かせ戴ければと思っております。



小野 先ず以て、現役の皆さんにはこのような座談会の席を設けて戴きありがとうございます。また創立七〇周年の記念事業は様々にありますが、完遂に向けて努力をされている姿をいつも遠目に見ながら応援をしているところです。その周年事業の集大成として素晴らしい記念会報を作成されることを願っています。さて、我々が携わった五〇周年の記念誌を作るのも本当に大変な作業でした。かれこれ一年半から二年位かかったでしょうか。過去の資料の復刻もありましたけれども、そういうものも含めて五百ページ近くにのぼる内容を一冊の本にまとめるというのは大変な苦労でした。しかし今思うと、この苦労があったからこそ、昔から今にこの歴史が繋がっているんだな、努力の甲斐あって本当に貴重な書物が出来たなと自負をしているところです。今回の七〇周年の記念会報も恐らく今後八〇年、九〇年、一〇〇年の周年事業に際して大いに役立つものが出来上がるのではないかと思っています。

主に五〇周年からのお話をということではありましたが、やはり今の自分があるのは歴代の先輩達の御指導や御活躍に接したからなので、先ずは五〇周年以前の先輩方のお話から触れたいと思います。先程、守屋会長からも話がありましたが、我々が携わった五〇周年記念誌の中ではこちらの社務所を使わせて戴き座談会を行いました。その時も、第九代の柳田直継(やなぎだなおつぐ)会長を筆頭に歴代会長の皆さんにお集まり戴きました。自分が青年会へ入会したのは、第十代の佐野主水(さの もんど)会長の時で、その後も多くの会長の下で青年会活動に携わらせて戴きました。多くの先輩方の御指導の下、色々勉強もさせて頂きながら、私の先代である第十七代の小泉浩之(こいず

みひろゆき) 会長が在任中に創立五〇周年の記念の節目となり、多くの記念事業は小泉会長の代で行われました。ただ、記念誌の作成には長い時間がかかり、周年事業全体を見渡すと足かけ四年ぐらいかったです。いずれにしても、全ての事業を終えた時が私の在任中ということになります。いずれにしろ歴代の会長は本当にスケールの大きい有言実行型の優れた先輩方が多くいらっしゃいました。当時は今ほど役員も大勢はおらず、少数精鋭で、会員が対外的な教化活動も含めて、すぐスケールの大きな事業を成し遂げられました。その代表格が神興保存会などの協力を仰ぎながら開催した、昭和天皇の御在位六十周年の奉祝パレードです。伊勢佐木町で行われて、何万人も集まったでしょう。他にもかくにもそのような大々的な事業が行われたり、あるいは神宮の御鎮座二千年の折には、伊勢の地に赴いて奉祝の大神輿渡御を行いましたし、創立四〇周年の記念事業では、サイパン島で現地の人達の協力を頂きながら戦没者慰霊祭が盛大かつ厳粛に執り行われました。歴代会長の努力と行動力によってこれだけ素晴らしい事業を成し遂げられるんだと、当時から諸先輩方の御功績に対して尊敬と羨望のまなざしで見えておりました。そういう先輩方の御指導の下、自身が会長になった時には何を心がけたかというと、やはり先輩方が起こして継続してこられた素晴らしい事業などは後世に残したい。また非常に素晴らしい事業でありながら、事情によって中断してしまったものも幾つかあったため、それらは復活させて、より大きな事業として成り立たせたい。そういう思いで、先輩方の残してこられた業績を発展継続させるというのが私の会長在任中の目標でありました。その中でも特筆すべきは稲作事業です。稲作はやはり神道信仰の中核で



あります。我々は祭典を奉仕し、また祝詞を奏上しながらも、田植えや稲刈など稲作のことは実体験として理解していなかったため、本当の意味での祭祀が果たして出来ていたのか。そう振り返ると、やはり実際に米作りに動しんで、その下で本当の形の祭祀を行うべきだろうと稲作事業を企画致しました。稲作事業を主として、その他にもバーベキューやボウリング大会など会員同士の交流、また家族同士の付き合いを深める親睦事業にも力を注ぎました。更には自分の在任中に新たな事業として行ったのが特殊神事の実地調査というものがあります。我々神職は、今日の定められた神社祭祀に従って厳格に祭祀を行うのは当然ですが、近世まで当たり前のようにそれぞれで行われていた各神社独特のお祭りというものは地域性が豊かで、祭儀はもちろんのこと、神饌などもその神社ならではのものが豊富に残っています。そういう昔ながらのお祭りを調査するのも青年神職として一番の勉強だと思い、真っ先に向かったのが相模の国府祭であり、夏には浜降祭でした。この青年会時代に培った実地調査は、私が神社庁の祭祀委員のお役目を頂いてからも、韓国の積奠(儒教)、台湾の保生大帝(道教)をはじめ、タイやバリ島などのお祭りや宗教行事の調査へと幅を拡げて、結果的に沢山の収穫を得ることが出来ました。又一方で、このような様々な青年会活動を企画、構築していく中で、自分がとりわけ力を注いだのは内部充実を企画、構築していく中で、自分がとりわけ二つの柱を設けました。一つ目が会員の増員と拡大、二つ目は財政基盤の充実、この二つを柱として目標に突き進んだことは未だに記憶に残っています。話が長くなってしまいましたが、青年会へ入会して目の当たりにしてきた先輩方の熱い思いや素晴らしい行動力を目標にして「青年会の大事などころをしっかりと守って後世に伝える」そういう気概を持って全力を傾けた自身が会長の二年でありました。(拍手)

司会 ありがとうございます。今、小野先輩からお話がありましたが、この五〇周年の前後は会の発展を目指す上で、多くの会員が参加出来るような事業作りが図られていたようです。その中で、様々な事業が企画され、今もなお継続されているものも多く残っており、特に「稲作事業」に関しましては、当会として神青協定例表彰を最も多く受賞

しております。今や当会の顔とも言える事業へ発展している「稲作事業」について詳しくお聞かせ戴けたらと思います。

小野 稲作事業に関しては、もともと草山清和（くさやまさよかず）会長が発案をされて、それを次の中村知修（なかむらちしゅう）会長が実現、その後、小泉倫孝（こいずみゆたか）会長へと継承されました。小泉浩之会長は創立五〇周年が忙しかったこともあり、一時中断してしまつたのですが、私が会長の時に永井武義君が企画部長を引き受けてくれて復活をしました。最初は田植えと稲刈だけでしたが、苗床を作るところから始めて、クロツケ、夏の草取り、虫送りや案山子作りなど、そういう努力を一年間積み重ねて、本当の収穫の喜びを実感致しました。そういう苦労があったから「精米の時のありがたみ」というのは今でも忘れないですね。お米というのはやはり無駄を作つてはいけないので、藁で注連縄作りも行いました。子供達にも経験させようということで広く声をかけて、賑々しく注連縄作り体験事業を行った記憶があります。

司会 御神田の選定なども大変苦労されたというお話を聞いていますが、稲作事業の発祥や歴史などについてもお聞かせください。

宮本 確か青年会のお田植え祭は、平塚市の片岡という場所で行ったのが最初でした。

永井 そこで四年間。小野先輩のお話にあつた通り、その後二年間の中断はありましたが、次は青年会OBでもある近藤喜一（こんどうきいち）先輩の伊勢原市池端にある田んぼをお借りし



て稲作事業が再開しました。
司会 近年は比々多神社様の氏子さんに田んぼを長くお借りしていますが、以前は違つたのですね。

永井 小野会長期、私が企画部長を拝命して一年目ですね。その時に先ず稲作事業の再開を考えましたが、御存知の通り年度始めは四月からですので、そこからイセヒカリの籾種を用意するには間に合わず、初年度は実現出来ませんでした。その年の暮れに、先ずは注連縄作りをやるうということで注連縄作りから始まりました。そういった経緯もあつて、一年目は注連縄作り、二年目の時にはイセヒカリの籾種を用意出来たので、池端の近藤喜一先輩の田んぼをお借りして、再び稲作事業が始まりました。池端の中でも一度、御神田に移つたりもして、なんとか四年間は続いていたのですが、やはり目的が「青少年の育成」というところも含め、子供達が大勢集まるとなると、手洗いが出来ず、車を止められないというのは大変不便でしたので、色々と検討した結果、比々多神社のそばにある責任役員さんの田んぼをお借りすることが出来て、そこへ移つたということです。

司会 御神田の選定については、そういった経緯があるわけですね。

永井 比々多神社のそばに御神田が移つてからは、神社庁青少年部のボーイスカウト宗教習得講座の中で高校生が参加する機会もありました。

宮本 もともと神社庁の事業で山梨の長坂まで行つていて。それがこちらへ参加したこともありましたね。

瀬尾 少し話が戻りますが、そのイセヒカリという品種は昔から伊勢で作られていたのでしょうか？

永井 いや、イセヒカリは平成十二年に見つかった新種と聞いています。
佐野 イセヒカリは、御神田が大雨で水がついてしまった際に、御神田の稲の中でも軸が太くて台風に強いものだけ残つたという経緯があつて、それをイセヒカリとして御神田で主に作るようになったと聞いています。各都道府県でも御神田や神饌田に是非イセヒカリを植えたいとの声があり、伊勢から頂かれる人達がいたとのことです。コシヒカリの突然変異との説もありますが、突き詰める必要はない、有

難いお米がイセヒカリと呼ばれているようです。

永井 イセヒカリの粳種を用意するのも当初は大変手間がかかりました。思い当たる人達に聞いて、あちこち問い合わせた。最終的には埼玉県の農家へと辿り着きまして、その方と直接やりとりをして、初めて粳種を頂いたんです。それが最初でした。

瀬尾 その粳種が今、県内で引き継がれているんですね。

宮本 イセヒカリと一緒に古代米も作っていたよね。

永井 中村知修会長の頃から古代米…赤米、黒米を作っていました。

小野 赤米は、赤飯の原型と言われてますね。古代米は軸が長くて丈夫なので注連縄作りに最適なんです。

司会 先程、注連縄作りも子供達を集めて賑々しく開催したというお話がありました。

永井 最初は子供達といってもやはり会員の子弟が中心だったと思います。

小野 良い事業だということ
で地元のラジオ局も取材に
来てくれました。確か生放
送だった。

宮本 池端では、田植えの行
事だけじゃなくて、虫送り
とかもやりましたよね。

小野 虫送りと案山子作り、
風祭だね。

永井 あれは近藤先輩が火を
つけたんですよ。青年会は、
その区切り区切りを大事に
しなきゃいけない。それには
全部お祭りが伴っている
ということ。（笑）

小野 子供達と松明を作っ
て、田んぼのところで、煙



を焚いて虫送り。

宮本 やりましたね。今も田植えだけ
は比々多神社さんで、かれこれ二十
年続いているわけだよ。

永井 神青協の表彰も三回くらい受け
ているんじゃないかな。

司会 平成八年、平成十五年、平成二
十四年の三度頂いています。

永井 平成二十四年というのは誰が会
長の時？

瀬尾 私の会長期に、まほろば教育事
業団と一緒にやった時ですね。当時、
神奈川県神道青年会独自に神話の紙
芝居をつくり、参加の子供達に読み
聞かせを行ったりしていました。

小野 今や青年会が毎年行っている継
続事業としては一番長い事業になる
んですね。まだ続くんだよね？

守屋 現状、耕作者の長嶋さんの義理の御兄弟で、今、永井先輩のお宮
の責任役員さんをお務めの小泉さんという方が耕作者としてお手伝い
くださるという有難いお話を頂戴し、継続してイセヒカリを変えられず
作る形で今年も種まきを終えております。

小野 ああ、そう。よかった。

司会 では次に、一番ご苦勞をされたという会務運営の充実化について。
ご苦勞をされただけあって思えば話には尽きないと思いますが、是非お
聞かせください。

小野 冒頭に二つの柱と申しましたが、まずは「会員の増員と拡大」に
ついて。自分は大学の教員も兼ねていた関係で、授業中の生徒を見て
いると女子の割合が非常に多くなってきたのを感じておりました。女
子も男子学生と同じように勉強、実習をして同じ神職資格を取ってい
るにも関わらず、当時は奉職先が全く無く全国でも五社ぐらいしか女



子神職を求めている神社が無かった時代です。当時の会則を見ると、会員は県内の四十歳以下の神職のみという条件だったのですが、そういった奉職先の無い若者達も青年会活動を一緒に出来るような会則へ修正をしました。奉職が叶わなくても青年会へ入り同じように神社界の活動が出来る、そういう体制を作ったことで会員が随分と増えて、百五十名いる会員の中で女性会員が二十名を占める、そんな形で会員の増員が成し遂げられました。もう一つ「財政基盤の充実」については、私が会長になった当時、金銭面で本当に苦しい時代でしたので、このままでは活動も満足に出来ない、やはり活発に活動するには財政面がしっかりしないといけないという思いで、賛助会員制度を確立しました。県内神社の宮司さんへお願いをして回って、青年会としてこれだけの活動をしているのだと認めてもらい御支援を頂きました。また、当時はインターネットが普及し始めた時代だったものですから、青年会のホームページを作成して、県内本務神社の全てを掲載し、その掲載料を定期的に頂けるような形を作りました。この賛助会員制度とホームページの作成によって、青年会の活動資金が潤沢になり、思う存分活発な活動が出来たと理解しています。



永井 その甲斐あってか、ちようど会員数が一番うなぎ登りに増えている頃で、五〇周年という一つのタイミングもあり、会員の結束が固まった。今のお話の通り、財政基盤や会員拡充の根底が確立出来ていったこともあって一番会員が多かった時代ですね。

小野 周年の協賛金を集めるのも結構苦労しましたが、普段の活動費もやはり皆で協力して、率先して協賛を集めて戴いたから、それだけの事業が出来たわけで。最初はお金もなくて、活動費の収入源もなく、これじゃ活動出来ないと思って必死で…本当に必死だったの。

瀬尾 ここで賛助会員制度の見直しをしていなかったら、今も大変だったかもしれないね。

宮本 小野先輩が熱く語られましたけど、やはり語るだけの努力とか実績があるんです。苦勞して苦勞して基礎を作ってくれた人ですから。賛助会員制度というのは昔からあったんだけど、組織作りまではいかなくて。小野先輩の時に賛助会員をどうにかしなきゃいけないということ、各神社へ挙つてお願いに足を運びましたね。

瀬尾 あとは事業部の収入も、当時は七十万円以上の収益があるような部だったから、大きかったと思います。

小野 目玉商品は何だったわけ？

瀬尾 白衣の三枚セット。あとは作務衣ですね。

小野 確か草山先輩が神青協の事業委員長で。神青協で作った白衣の在庫が少し余ったから、じゃあこれ、神奈川神青で引き継いじゃおうよって。(笑)

宮本 白衣二枚に袴袴二枚で一万二千元、格安だったと思います。



佐野 覚えていますよ。小野先輩が会長だった時に私は専攻科の学生で同級生にも出して良いという話で、國學院大學の古い祭式場の方に特別に教員スペースへ車を止めていいからって許可されて、荷台に白衣セットを満載にして夏の実習前のクラスメイトに売り捌きました。(笑)

小野 学生にはセットだと多いから、二人で一セットというふうに。

宮本 それは事業部の方に入ったんですか？(笑)

小野 もちろん。(笑)

瀬尾 事業部の収入と賛助会員とホームページの収入もあって、何とか会務運営の充実が出来てきたんですね。

古木 今となつては、活動費の大半をホームページの協賛が占めてないですか？

守屋 そうですね。

永井 先程のお話の通り、青年会のホームページは五〇周年の柱でしたが、その時は根岸君が色々と会社へ掛け合つたりしてくれて苦勞したんだよね。

根岸 そうなんです。あの当時は、大社さんは別としても、今のよう

各お社がホームページを独自に持っている時代ではなかったんです。けれども小野先輩が言われたように、賛助会員の会費、そして青年会のホームページに各お社の情報を掲載することによって皆さん協力して戴けるんじゃないかという目論見もありました。瀬尾君と一緒に業者を回って、結構これは時間がかりました。

司会 五〇周年の時にホームページを作って、その時に併せて協賛も始めたのですか。



根岸 そうです。あの時は、小野先輩が会長の時では是非やってくれということでしたが、まだ全国でもホームページを持っている単位会はとも少なく先駆けだったと思います。その後、各単位会でもどんどん増えていきました。そして、青年会のホームページは、神青協で平成

十八年に「優秀広報賞」を受賞しました。

瀬尾 当時は神社庁でもＩＴ特別推進委員会があったのですが、神社庁自体のホームページが出来ていなかった。青年会は五〇周年で作ったのですが、業者へ支払っている年間サーバーとメンテナンス料があまりに高額だったので、じゃあホームページを買い取って独自に運営をしていこう、その代わりに掲載料を頂きましょうということで始めたのがきっかけです。

根岸 掲載料を頂くからにはしっかりとものを作ろうということで、社頭の写真や掲載する資料を集めるのが大変苦労しました。

瀬尾 ホームページを持たれていなかったお宮は、一社一社赴いて…実際に社殿の写真を撮って回りました。それが一番大変でした。

司会 今でこそ我々は何不自由なく潤沢な資金のもと活動させて戴いておりますが、当時は活動資金がなくて、苦労の末に今のシステムが出来上がったということだったんですね。それでは、会員が増えたことについては実際どうだったのでしょうか。先程、会員が参加し易いように会則を変えたという話もありましたが、そのように活動資金が豊富になると、自然と会員も増えていったのでしょうか？

小野 いやいや、声かけをしましたね。特に私が会長の時に副会長を務めてくれた春日神社の高橋秀聡（たかはしひでさと）君のように、単立神社にも青年神職はいますので、どんどん仲間に入ってもらいました。女性会員もぐっと増えた。

根岸 昔、小野先輩にお話を聞いたことがあるんですが、青年会も鶴岡八幡宮、寒川神社、箱根神社など大社の青年神職が大勢入った時期があったんですね。

小野 確か吉田周司（よしだしゅうじ）会長の時代じゃなかったかな。

守屋 しかし近年は年々会員数が減少傾向にありまして。特に今年などは会員数が百四名まで減ってきていることもあり、会員が減少する中でいかに会務運営していくかが喫緊の課題となります。

小野 そんなに減っちゃった？

守屋 一番多かった時代は、先程お話しがありましたが根岸先輩や守山先輩、瀬尾先輩、佐野先輩の頃で大体百八十名前後になりますね。それがもうここ数年で一気に百名近くまで減りました。

小野 今は昔と違って、卒業したら自動的に青年会に入るんだという意識だけど、我々の時代はむしろ青年会といったら特異な人間の集まりというようなある種独特な意識もあって、会則の入会条件が問題なかった人でも敬遠するような人が結構いました。そういう中、どんどんどんな声をかけて入会してもらったんだけど。そうやって努力して徐々に、百四十～百五十名まで増やしていききました。今は自動的に入るような雰囲気であっても百名前後が限界なのかな。

宮本 神職がいても青年会へ入らないということ？それとも、いないの？

守屋 もう県内に四十歳以下の神職が少なくなってきたんです。

永井 青年神職の絶対数がないのか。

瀬尾 話しは変わりますが、当時は今みたいに情報通信も発達してなかったから、何かを送送するというと神社庁に集まって、みんなで発送作業していましたよね。印刷物も全部神社庁で印刷させて戴いて。

宮本 今みたいにテレワークも無いし、インターネットが発達してなかったからね。

永井 小野先輩の時にメーリングリストを作りましたよね。

瀬尾 会員の携帯番号とかもラミネートしましたね。

永井 携帯番号の一覧を配るなんて今じゃ考えられない。(笑)

司会 今ではメーリングを当たり前のように使っていますが、小野先輩の時代が最初なんですね。

永井 活発に遣り取りをしていただけに、役員が終わって退会する時に、メーリングリストから外されたのがちよつと寂しい思いがしたね。

小澤 寂しかったですか？

佐野 多分、永井先輩が相談役の役目を終えて本当の卒業をする頃、守山先輩や瀬尾先輩達が永井先輩をどのタイミングで外そうかって話し合っていた時があつて。でも、その時に私がふらつと行つて「あつ、もう外しておきました」つて言ったのは覚えてますね。三月三十一日で外すのが礼儀だと思つたから。(笑)

根岸 毎日のように連絡を取り合つた仲間から、ある日スバツとメーリングリストから外されるのは寂しいものがあるよね。

司会 では次に、先程も話題に挙がりましたが、創立五〇周年の記念誌について。こちら五百ページ近くに及ぶもので、会の財産ともいえるほど膨大な資料がまとめられており、編纂にはとても苦労されたと思います。もし苦労話などがあればお聞かせ願います。

宮本 その表題の「誇り」という題字を、白井永二（しらいえいじ）宮司に御揮毫戴いたんだけど大変だったよね。ご自宅まで行つたんですよ。



瀬尾 当時は斎館ですか？

守山 いいえ。斎館ではなく、宮司職舎まで。二人で参りましたね。

宮本 そうだ、二人で行つたんだ。当時、守山君は記念誌の編集長をしていたからね。

瀬尾 写真は師岡熊野神社の関係の遠藤剛（えんどうつよし）さんという人。

小野 よく覚えているね、プロカメラマンの遠藤さん。記念誌の中のページもところどころ遠藤さんの写真が入っています。五〇周年の様々な記念事業は小泉浩之会長期で、記念誌作りを本格的に始めたのは自分の代、周年の最後の事業でした。

司会 五〇周年の実行委員長は宮本先輩でしたよね。



宮本 そうですね。二年間、小野先輩の下で副会長も務めました。小野先輩がある程度基礎を、基盤を作ってくれたんですね。先程の、財政基盤の拡充をして、会員の増員をして、私はもうぬるま湯につかるように次にバトンタッチさせてもらいました。私の時には会員の資質の向上というんですかね、増えた会員が良か、それと会を盛り立てていける人物になるかというううな、そういう目論見で二年間を過ごしました。御存知の通り青年会というのは、会長だけがやる会じゃなくて、その周りの副会長だったり各部長だったり、本

当に会員一人一人が一緒に目的に向かって意見を戦わせて、目的を完遂した時には達成感を味わって、みんなで喜び合うような仲間づくりをする。そういう会を目指しながら小野先輩の下、二年間やらせて戴きました。色んな思い出が沢山ありました。色々と御指導ありがとうございました。ありがとうございます。

小野 いえいえ。小泉愉孝先輩、小泉浩之先輩と私とで、とにかく色々な全国の事業に携わつて大変な時だったので。それで大体出来上がった会を宮本君が更に発展させてくれたのです。

宮本 そう、周年の間だったもので。小野先輩が五〇周年、永井君が五

五周年、その間の会長だったから、何かしたかな？つていう。(笑)

永井 ○○(マル) 周年の時はその時の会長が最後の年で終わりますが、○五(マルゴ) 周年の場合は二人の会長が跨ぐ形になって。ですから五五周年の時にも、宮本会長としては襖が最後だったんですよね。

宮本 そうだね。

永井 それで、私は次の五月の空襲の戦災死没者慰霊祭に集中して移ることが出来ました。会長二人で跨ぐというのも一つ大事なことがあると思います。会員は移らないんだけど、会長自身は代わっていくというね。

宮本 我々の時は本当にやりたいことが出来ましたね。多少失敗したつて、誰にも怒られることがなかったし。だけど今はなかなか大変だね。こんなコロナの蔓延してる状況だから制限もされるし。

司会 今、永井先輩からお話が出た創立五五周年の慰霊祭についてですが、関内ホールを貸し切り、県の戦没者慰霊祭と共に、遺族会と連携を図り合祀祭も大規模に執り行われたことが記録に残っています。これは、現役会員の多くが知らないところですよ。特に、今期より青年会では慰霊碑や忠魂碑の調査に乗り出しておりますので、当時のお話を是非お聞かせください。

永井 五五周年の実行委員長はお三の宮日枝神社の角井瑞(かくいみずほ) 君でした。昭和二十年五月二十九日に横浜に大規模な空襲があったという歴史は石川正人(いしかわまさひと) 先輩から伺っていて、当時は戦争で亡くなられた方の慰霊の施設はあるけども、一般戦災死没者の方々の慰霊する、御霊を慰



めるという場も無いということ、何か出来ないかということを瀬尾君が強く御下命を受けていて、この事業を提案してきたわけですよ。その時も結構是非々で拡大役員会で熱い議論をしました。とにかく初めてのことであったので、どこから手をつけていいのか、どこと交渉すればいいのかというのが先ず一番の問題になって。実行委員長の角井君、また先程、小野先輩のお話にも出た春日神社の高橋さんが担当の副実行委員長で、この二人の下で一般戦災死没者の慰霊の行事とパネル展が実施されました。瀬尾君を中心に、杉山社の小宮克章(こみやかつあき) さんと当時杉山神社の平岡美佳(ひらおかみか) さん達と進めてもらいました。

瀬尾 少ない人数で中心になって、横浜市の当局だとか色々なところと掛け合いました。

宮本 そういえば霊聖簿を書いたんだけど、横浜の空襲で亡くなられた方は名前が全く分からなかった。

瀬尾 そこを先ず調べるところから始まりました。

司会 どこからどのように手をつけたんですか？

瀬尾 先ず県内の各神社の宮司さんに依頼をして。例えば忠魂碑に書いてある人とかね。そして一般戦災死没者の方の中には、艦砲射撃で亡くなられた方などいらいしゃいましたので、氏子の方々から名前を集めたりするのは本当に苦労しました。

宮本 一生懸命集めたよね。それが今、慰霊堂に全部納めてあるよね。

佐野 神奈川県は、箱は受け取らず、名簿だけ預かりますというので、霊聖簿の名簿の部分が慰霊堂に納めてあります。

瀬尾 データとしても、ちゃんと名簿は県庁へ渡していますね。

司会 慰霊堂で慰霊祭を斎行したというのはどうですか。

瀬尾 きっかけは、先ず終戦五十年の年に神社庁主催で「英霊報恩感謝祭」という行事が慰霊堂で行われた際に、青年会で作った「イセヒカリ」のお米と餅をお供えさせて戴きました。青年会として、周年の際に神職の物故者慰霊祭は行われておりましたが、戦没者の慰霊祭は五五周年の関内ホールで行われたものが初めてであり、その時に合祀された御霊が慰霊堂へ納められ、六〇周年からの慰霊祭は慰霊堂へ移ったと

いう流れです。

守山 六〇周年の時は慰霊堂へ蹲（つくばい）の蓋と案を奉納しましたね。

佐野 県は宗教色の強いものは受け取らないとの話でしたが、遺族会が有難く受け取ってくれました。そしてその後は県も何事も無かったかのように、祭器も使用されています。

守屋 ところで五五周年の時、関内ホールにはどれくらいの人数がお集まりになったんですか？

瀬尾 御遺族とか神社関係者も含めて約七百人。関内ホールに集まった人が慰霊祭後、そのままボードウォークに移動して、灯籠流し。その後に解散式をするという大がかりな事業でした。

永井 ボードウォークを探すのが大変だったね。何度も場所を探して……飲みに行った。（笑）

守山 大岡川が良いだろうと、県議の松田先生や市議の斉藤先生に大変お世話になりました。

瀬尾 松田先生には、県庁で相談に乗って戴き、その後県庁内の記者クラブで会見の場まで設けて戴きました。また参議院議員の有村治子先生にもこの時初めて慰霊祭、そして灯籠流し、解散式までお越し戴いて、若い方々が、このようなことを意識して実行されるのは素晴らしいことだとお話を頂戴し、その後もご縁を頂いております。

永井 灯籠も業者が一生懸命作ってくれた。

瀬尾 大祓の人形を扱っている関西の大三という会社との繋がりで、サ



ンウォークという会社が三百ほど灯籠を提供してくれて。当日もわざわざ関西から来てくださり、式典を行っている間にボードウォークで組み立ててくださったので、会場に来た人達はとてもスムーズに灯籠へ願いを書いて流すことが出来ました。

宮本 それで、流した灯籠は？という話になって。海まで流しちゃいけないと言われて。

小澤 じゃあ全部回収したんですか？

瀬尾 小宮さんが。

守山 そうでしたね、小宮さんが回収しましたね。

永井 小宮さんが胴長を着て水の中に入って全て回収してくれた。

佐野 では後輩達には「みんなの願いを小宮さんが心を込めて回収してくれた」と伝えてもらいましょう。（二同笑い）

司会 では次に六〇周年のお話も伺いたいのですが、創立六〇周年では神奈川県神輿保存会（以降、県睦）や相模の大風文化保存会など外部の友好団体とも記念事業を行い、周年記念事業全体として神青協の定例表彰を受けています。近年は友好団体と合同事業というのなかなか難しくなってきたておりまして、六〇周年の禊や記念大会のお話なども伺い出来ますでしょうか。

永井 確か禊は、五五周年の時に県睦とのコラボが復活したんだよね。ご一緒していない時期が少しあったんだけど、県睦の新年会か道場祭へお伺いした際に、宮本先輩が「一緒にやりましょう」と言ったことが発端だったんですよ。

宮本 そうだっけ？（笑）



永井 宮本先輩の一言がきっかけで「お前ら、いつやるんだ」って煽られて、五五周年の時に江ノ島で。当日はとても寒くてね、県陸が炊き出しやってくれたのを覚えていますね。道彦は鶴岡の瀧森さんと寒川の水谷さんだったと思います。

根岸 少し時代が過ぎますが、県陸といえば阪神淡路大震災の復興支援に向かった時のことが今でも忘れられませんね。当時の谷会長はじめ県陸の方々が重機などを全部操縦してくださって。東明八幡神社の境内を綺麗にしてくれて。このメンバーでの参加は小野先輩、守山君、瀬尾君、私の四人でしたかね。寝袋を持って風呂も入らず三泊四日支援活動を行いました。

守山 草山先輩が会長で、石川正人先輩が相談役で。当時、神青協の監事の役職をお務めでいらつしやったと思います。

瀬尾 神戸まで草山先輩部隊と新幹線部隊に分かれて向かったんですけど、草山先輩の方は車に物資を積んで現地まで向かって、新幹線部隊は県陸の人達を連れて新幹線で神戸まで入ってくれという話で。私は新幹線部隊の方で、そこで初めて県陸の人達と会ったんですけど：色々とびつくりしちゃって。なんと新幹線の中でナンパし始めるのよ、売り子のお姉さんを。ここ座れるよって。(笑)

小野 良い話をしているかと思えば。(同笑い)

瀬尾 でも、県陸の人達が神戸のあの惨状を見た時、一瞬にして目の色が変わったのよ。もうユニボを使う目つきが全然違って、取りあえず明日を見越して今日のうちに出来ることをやっておきたいっ



て。移動で疲れているはずなのに。砂をこう、ユニボが通れるようにしたり、次の日の業務に支障がないようにさ。あれはすごかった。やっぱり神輿を担ぐ人達が力を合わせるとすごいなと後で思いました。
小野 復興支援にユニボを使えたのは大きかったですね。手作業だけでは限界がありますし。

瀬尾 そのユニボとかを持ってきたのが、師岡の旧職員でもあった岡山の木山さん。お亡くなりになりましたが、当時、本当に助かりましたね。大きなユニボと小さなユニボの二台をトレーラーに積んで。

永井 そういう土壌があったってことね、県陸とのね。そして六〇周年ってことでしょ。

宮本 六〇周年の記念大会といえは、小泉進次郎さんが急遽出席されて。
瀬尾 いやいや、本当に急遽だったので「急いで席を用意しないと」ということで慌てましたね。

守山 大変有難いお話だったのですが、六〇周年の記念大会では大勢の議員さんにご臨席を賜りまして、そうなるかと来賓の議員方のご紹介があまりに長くなり過ぎてしまつて。多方面の方々からお叱りの声が飛んできたのを覚えています。

古木 私は司会だったんですが、全員紹介するよう言われたのですつとお名前を読み上げていたら周りがざわつき始めて：長いって。(笑)

守山 青年会の周年大会は、様々な方面から多くの方がお祝いに来てくださるのですから、今後もしも良いところや悪いところを踏まえながら、より良いものにして戴きたいです。

永井 私、五〇周年の時の会計だったのですが、五〇周年の時は歳計調整資金から百万円持つてきて、それでも一千万円に届かなかった。それが五五周年では一千万円を超えちゃったんですよ、〇五周年なのに。これは今後どうするのかと思つたら、やはり六〇周年の際には予算がもつと高くなつて：多分、六〇周年が最高じゃない？

佐野 還暦の年でもありますし、五〇周年、六〇周年というのはどんな組織でもやはり一番盛り上がる時期ですから。そこまで大規模なものは、次は一〇〇周年まで無いでしょうね。(笑)

守山 今思うと、先輩諸賢が築かれてきて、一番良い時に六〇周年を迎えられたんでしょうかね。

宮本 六〇周年の一番の柱となる記念事業は何でしたか？

佐野 御即位二十年奉祝パレードと大風ですね。

古木 私が青年会へ入った時ですね。青年会と大風を繋いでくれたのは、確か根岸先輩だと記憶しています。

根岸 相模の大風文化保存会ですね。これは私の兼務社の総代さん達が中心になって活動している組織ですが、毎年五月に相模川の河川敷で六間（ろっけん）大風を揚げるんです。その勇壮な大風を見て、是非青年会の事業とコラボ出来ないかと常々思っていたのです。

守山 対外的な、渉外的な団体としては、県陸が主であったんですけど、六〇周年の時に根岸先輩のご紹介と古木君の御縁で、初めて相模の大風文化保存会と繋がりが生まれました。その後、数年、忘年会にもご参加戴きました。

瀬尾 川沿いで、チーム守山の赤いTシャツ着て、三間（さんけん）でしたっけ？会場では私達の紹介アナウンスをして戴いて：揚げましたね。

守山 六〇周年記念大会の時に、会場のシェラトンホテルにも搬入して飾りましたね。

佐野 六〇周年の襖の時に手作り和風を子供に揚げてもらう予定だったのですが、強風とみぞれで残念ながら中止になって。大風も唯一揚げられなかったのが、その時だけですね。

瀬尾 すっっっごい寒かった。あれだけ寒い襖、経験したこ



とないぐらいだった。守山先輩、海から上がった後震えてましたよね。（笑）

守屋 あの時も県陸の方が火を焚いてくださってましたね。

佐野 ジェットヒーターもあったし、確かドラム缶みたいなものも持ってきて焚いてくれていたかな。

守山 襖の他にも、六〇周年では旧庁舎にウラボロハコヤナギを記念植樹しました。

守屋 県内の全宮司さんへもお配りしてるんじゃないですか？



瀬尾 あれもね、守山先輩と佐野巖君とたまたま一杯飲んだ時に、何の植樹をしようかっていう話になったんですよ。その時、次かその次の遷宮の時には何か奉納出来れば良いなという話になって。そうしたら佐野巖君が「柳筥（やないばこ）」とかどうだろうって。

佐野 何か周年の節目を次の節目に繋がることをしてみようと。周年だけに、二十年後の周年に繋げるみたいなのも面白いよねって。

瀬尾 植樹って、植樹したら終わってことが多から、そうじゃないものを創りたいという発想だった。

司会 六五周年の時の襖はどうだったんですか？

古木 襖は佐野会長の時だったかな。先程の宮本先輩と永井先輩の話と同様に、〇五周年だから、周年事業の途中で佐野会長から私へ引き継いだ形。

佐野 そうだよな、ちょうど期がね。私の期も先程の宮本先輩の最後の襖で終わってという同タイミングだったのですけど。ただ、会長期最後の事業であっても、私は居なかったけど。あの時は、三月十二日に周年事業の襖が組まれたんだけど、三月十一日に神青協の東日本大震災の慰霊祭参列の為に岩手県へ向かうことになってね。副会長と実行委員長がいれば何とかなるでしょうということで強行してもらいました。

古木 その時も強風波浪注意報で。（笑）

守屋 森戸で気持ちよく禊しましたね。(笑)

古木 いやいや、波が強過ぎてまともに大祓詞も上げられる環境じゃなかった。(笑)

司会 六五周年の佐野会長の時も禊が最後だったんですね。

佐野 ただ、その最後に居ないっていう。(笑)

守屋 やむなく会長が出られなくても、それに動じない組織作りが大事ということですね。

瀬尾 そういえば昔、禊は神奈川県神道青年会の恒例事業として行っていて、十回連続で参加すると表彰していたのは知ってた？

司会 そうなんですか。初めて聞きました。

瀬尾 青年会から、楯を贈っていたね。

司会 その頃は年二回やっていたとかですか。

瀬尾 いや年一回だね。当時は鶴岡の禊場が多かったかな。

司会 十年皆勤ですか…。

小野 その前は江ノ島。それこそ弁天屋。

永井 大山でもやりましたね。

良弁滝(ろうべんのたき)。

古木 私が会長の時は箱根神社で。芦ノ湖で禊をしましたね。

小澤 私の時は、祭式の研修会の方が長く開催されてい

かったんで、一年目は祭式をやるうという話になったのです。二年目は上皇陛下の御在位三十年の勤労奉仕などが決まっていたので、残念ながら開催はしませんでした。大寒禊をやってもよかったですけど。

永井 大寒はね、寒いよね。



宮本 寒いじゃないけど、鶴岡さんの禊場はね…冷たいんですね。何でこんな冷たいのかって。(笑)

小野 自分が教養部長の時は、禊は夏の風物詩だから夏にやりましょうと言ってます。

永井 百人一首でも「みそぎぞ夏のしるしなりける」とありますからね。

小野 それでね、鶴岡さんで禊をしたんだけど…冷たい。夏でも冷たかった。(笑)

佐野 私が会長の時も夏に海の公園で禊をしましたよ。その後は直会ということで親睦部にバーベキューを企画してもらって。

守屋 何かよく分からない海草がすごくて。海水浴客も多くて。

佐野 さすがにこの時期に海水浴場で禊は止めた方が良くという結論になりました。(笑)

宮本 そういえば、伊勢でも禊をしたよね？

永井 御木曳の時ですよ。私が会長の時。石川先輩に道彦をお願いしたらぶん殴られた。グーで。(笑)

瀬尾 これ必ず書いておいて。(二同笑い)

永井 お蔭で記憶に残る素晴らしい禊になりました。(笑)

根岸 御木曳と言えば、私の時も川曳きへ行きましたね。気合入れすぎてびしょ濡れの参加者もいました。

佐野 始まる前から、髪の毛までも濡れになってて。びしょ濡れでした。

根岸 瀬尾という河童が出てきてね。(笑)

瀬尾 出発前に猪口才にも私に足払いする先輩が居ましたからね…返り討ちに水に引き込





で。（二同笑い）
 本日（とう）の座談会を通して、お田植えやお宮逢ひなどが定例表彰を受

けたというお話、また石川先輩や草山先輩が外向されていたお話など出ましたが、ここで神青協についても触れさせて戴いてよろしいでしょうか。

小野 そうですね。以前のものは、五〇周年の記念誌に神青協出向歴代役員名簿として記録に残っていますので割愛させて戴きますが、私の頃は石川正人先輩が平成三年に神青協の副会長として活躍されておられました。また、平成九年には指名理事に草山先輩、そして私が地区理事として出向しました。懐かしい思い出です。

守屋 七〇周年の記念会報にも後世へ残す記録として神青協出向役員の名簿を掲載させて戴きたいと思っております。

宮本 私が会長の時には、神青協の指名理事に根岸君が出向しました。神青協の事業で北へ南へ飛び回っていた記憶がよみがえってきますね。

永井 私は会長の折、神青協議長という大役を仰せつかりました。今思えば先輩方の足跡を繋ぐ役目だったと感じています。

佐野 永井議長時の神青協総会から出席させて戴きましたが、あの時はまだ議場の先輩理事の皆さんは、どこか遠い、あちら側の存在でした。まさかその後何年かそちら側に座ることになるとは思ってもいませんでした。(笑)

根岸 そして、私の代の時に永井先輩が神青協議長から副会長へ就任されました。嬉しかったですですね。副会長を輩出した青年会としても神青協の事業へは全力を尽くすべく協力体制をとっていたのを覚え



ています。

永井 ご縁あって、本当に貴重な経験を積ませて戴きました。そして私の後、佐野巖君が思いを引き継いでくれました。

佐野 思いを引き継いだ、とはおこがましいですが、思い返してみますと、守山会長期に初めて遷宮委員として神青協へ出向させて戴いて、その後、地区理事、副会長、監事と様々な経験をさせて戴きました。地区理事は、関東地区は輪番制で回っていますので、神奈川からは小野先輩以来十二年ぶりの出向となりました。副会長を務めた期には、溝口神社の鈴木敬一(すずきひろかず)君も事業委員として一緒に出向しました。この神青協の特別委員会は地区や年齢も違うメンバーが集まって、人によっては若い会員の兄貴分として、また人によっては神青協理事への登竜門として、様々な経験と多くの刺激を受けることが出来ます。是非今後も神奈川神青から多くの後輩に出向して貰いたいです。



小澤 私の会長期に、佐野巖先輩が神青協の会長を務められました。全国会長輩出の単位会として成すべきことは何かと常に意識はしましたね。その中で、「伸び伸びやれ」との言葉を頂けたのは心強かったですし、佐野先輩の活躍に引っぱられるように伸び伸びやらせて戴きました。

守屋 有難いことに、私も佐野巖先輩が神青協の会長期に神宮啓発副委員長として出向させて戴きましたね。

永井 神奈川神青から初めての全国会長誕生であり、臨時総会の時は激励に神社本庁まで足を運んだのを覚えています。

瀬尾 神奈川県から全国の会長を出すことは悲願でした。

佐野 諸先輩方の熱い思いと、神奈川初の会長を出すという迷惑な期待と、神奈川神青の力強い後押しを頂いて、なんとか任期を全うさせて戴きました。自身が神青協会長として全国に出向する時に、小澤君が神奈川の会長として会を挙げて後押ししてくれて、守屋君が遷宮啓発委員会の副委員長として身近で活躍してくれました。その様子を見て、

他の神青協理事も佐野は神奈川から出向して言いたいこと言っているんだなと意識したと思います。本当にありがとうございます。

守屋 神青協の副会長を務められた石川先輩、永井先輩の思い、佐野先輩が会長として引き継いで…これから神奈川神青を背負う後輩達が、この思いや歴史を継承しながら先輩方以上の活躍をしてもらいたいと思っています。

司会 大変、有意義なお時間を過ごさせて戴きましたが、残念ながらお時間も迫ってまいりました。最後に一言、これからの青年会に期待すること、また残して欲しい事業や精神などでも結構です。今後の青年会員へお言葉を、順にお願い致したいと思います。

小野 どんなことでも全力を傾けるからこそ達成感や充実感があるのであって、青年会というものは、そういう意味では全力を投入するに相応しい組織だと思っています。青年会を卒業した後に、支部の役員や神社庁の委員などを務めている方も沢山いますが、果たして支部や神社庁がそういう対象になっているかと思うとなかなか難しい。そういった意味を考えると、青年会の組織というのは本当に有難くて、自分の全てを投入出来る。だからこそ、全力を注いだだけ良い思い出ばかりが残っている組織なものですから、やはり現役の皆さんもそういう思いを持って、青年会を愛して、神社界のために活躍をしてもらいたいと思っています。

宮本 五〇周年の記念誌の中にも残っていますが、第十一代会長の本牧裕司（ほんもくゆうじ）先輩のお言葉で「青年会は青の年の会、だから失敗が許される年齢だよ」ということで、思う存分失敗を恐れずに活動してください。

永井 青年会というのは教養と親睦が主だと思っています。内をしつかり固めれば外の方にも目は向いてきますし。そして、その立場、立場で一生懸命やることによって、やがてこういう冊子が出来上がって振り返った時に、後の頼りになると。やっぱり一生懸命やるのが、後々のためになるかなと思いますので、目の前のことに全力を注いで欲しいと願っています。

根岸 私は、研鑽・親睦の場である青年会は過程が大事だと思っています

です。目標に向かって一丸となって進んだこと。そして目標を為し得た達成感・充実感を共有することなんです。青年会に入り夫々皆お役を頂くと、どうしても奉務するお宮との色々なやりくりというのが出てくるんですね。ピンチに陥ることもあるかもしれませんが、考え方を変えればこれは役職につく絶好のチャンスであって、役を受けたらお金の面、時間の面、もうとにかくやりくりをして、それが青年会を卒業した時には糧となって、自身のお宮に戻った時や、奉務するお宮でそれをフィードバックする。そして氏子崇敬者の方々から頼もしく思われる神職を目指してどんどん研鑽を積んで戴きたいと思っています。これからは神奈川県神道青年会が他の単位会の指標となるような、素晴らしい会になることを願っています。



守山 平成元年に会章会旗制定のことで、小野先輩も携わられた記録が残っていますが、神奈川県神道青年会の会章は、『県の木』でもある銀杏の木をモチーフとして、緑と金で色付けされ、当時の六つの部会（教養、広報、事業、親睦、渉外、企画）と六弁の百合を掛け合わせ、基本

となるこの六つのものが結束するという意味もデザインに込められているそうです。私は五〇周年の際に、記念誌の編集に携わらせて戴きましたが、それぞれ歴代の先輩方も「青年会は仲間づくりが大切だよ。自己研鑽、相互研鑽の場でもあるのだよ」と言葉を同じくして仰っていました。これはとても大事なところじゃないかなと思います。仲間づくり、これがまた、後のこのような青年会卒業以降の活動でも、今まさに先輩方と一緒に、斯界のために息づいていると思いますし、会章のモチーフである銀杏の木というのは公孫樹とも書き、「おじいさんが植えた木が孫の世代に実がなる」という意味もあるそうです、先輩方が植えてくださった銀杏に実が沢山なつて我々の世代で豊かになり、そして現役の皆さんが次の世代へ、次の世代へと実を分け与えられるよう銀杏の木をしつかりと育ててゆく。会章の中にはそのような意味も含まれていると思いますので、是非とも次の方への糧を渡すこ

とも踏まえつつ、青年らしい活発な活動をして戴ければと思います。

瀬尾 私も本当に仲間づくりが出来るのはこの青年会ということ、そして自分の生涯神主であるということを考えると、自身の人間性がつくられるのが青年会だと思います。青年会の仲間達と共に経験を共有し、また先輩諸兄の方々から教えを乞い、確立出来るのだと思います。ですので、参画出来る事業には率先して臨んで戴きたい。限られた年齢の中で一生懸命に過ごしていると、四十歳までという時の流れはとても早く感じるものです。そして、これから青年会に入ってくる人達には、神宮の御事に際しても積極的に関わって戴きたいと思っています。御聴許が出てから本格的に遷宮という言葉が頻繁に使われると思いますが、本宗と仰ぐ神宮がどのようなことを行っていくか、また経験出来る諸行事には率先して参加して戴いて、神宮奉賛のためにもお力を頂きたいと思います。「出合い」「絆を深め」「実行に移す」神奈川県神道青年会が連綿と続く会であるように祈っています。

佐野 少し切り口を変えますが、私は先輩達が継続してきた事業を闇雲に続けて欲しいという思いは無いんですね。というのは、神社庁とか支部とか各お社でなかなか出来ていないことが、青年会だから出来るというものがあるはずですから。今も稲作事業が長く続いているのはそういうことだと思うのですよ。もし仮に神社庁が大々的に青少年育成の稲作事業を始めれば、もしかしたら青年会の役目は終わっていて、今度は違う事業に力を注ぐ時が来るかもしれない。ただ、そうでない青年会ならではの事業のうちは、しっかりと稲作事業を三十年、四十年と続けてもらうことも大変有難いと思います。また、私は対外的なお役を長いこと頂いたこともあって、本当に外に出れば出るほど神奈川県神青の有難みというものを身にしみて感じました。神奈川県神青の会員だから、神奈川県神青のバックボーンがあるから、一都七県や神青協などへ出向していった時に、大変勇気をもらって、力強く活動が出来たのだと思います。やはり「地元の単位会へ力を注いで、その経験をもって外とも付き合える。そして、外で自分が得たものは、地元の単位会に持ち帰り皆で共有する。」という過程が大切かと思っています。今後も対外的に活躍してくれる会員にとって本当に有難い会であり続け

てほしいなと思います。また、青年会組織は色々な役職が分担して会務を運営しています。当然ですが多くの役職は当代の会長から依頼をされて組織が出来上がっていくので、先輩や経験がある人から「依頼をされている」ということは「あなただったら出来る」ということです。是非依頼を受けた役目は断らないで欲しいなと思います。自分は、伊勢から帰ってきて一period目が終わり、根岸先輩が次の会長に選ばれた際に「事務局長をやってくれないか」というお話をもらい、その時はまだ若かったので、大変失礼ながらお断りをしてしまったのですね。そうしたら、ある先輩から電話がかかってきて「お前、役を自分で選べるなんて随分偉くなったものだな」と言われて、その数秒後にもう一度根岸先輩から電話がかかってきて「よろしく」と言われまして、もう「はい」としか答えようがないわけです。それで大変有難い依頼を受けさせて戴いたら、今度はまた、そのある先輩から「一都七県協議会の事務局も受けたから」と。「誰がですか」と聞いたら「いやお前が」と。「事務局が二カ所になったら混乱するだろう」と。これはまた、この前のあれだなと思って。また断れるほど偉くなったなっと言われちゃうから「はい」と返事をしました。今思うとそれが契機となつて、一都七県にも出て、次に神青協の遷宮委員になつてと、あの流れの中でどこか一つでもお役を断っていたら、ここまで青年会活動に携わることも全国各地に沢山の仲間が出来ることもなかったなと思いますので、是非とも依頼を受けた時は断らずに、どんな役でも一生懸命やって欲しいなと思います。

古木 今、佐野君が言ったとおり、私は言われたことを全て受けさせて戴きました。御承知の通り、自分は神社界に入ったのが遅く八年間しか青年会員でいらなかったもので、頂いたお話は断るのがもったいないなというのが私の考えでした。今思えば、言われたことを全て受けたことが、今の自分の力になっている部分が多くあると感じますし、私が定年となり青年会を退会した際には、何もやることなくなくなつたように感じてしまうほどでしたので、「参加することに意義がある」じゃないですが、現役の間は全力を注いで戴いた方が悔いなく青年会を終えられると思います。大変な時もあるかもしれませんが、現役会

員の皆さんには是非とも青年会に時間を割いて参加して戴ければ、終わった後には必ず何か得るものがあるはずですので、全力で頑張っ
て欲しいと思っています。

司会 貴重なお言葉をありがとうございます。それでは、座談会の締め、歴代会長でもあり、現役会員でもある二人から御挨拶を申し上げます。



川辺 実行委員会の総括という立場でございますので一言御礼の御挨拶をさせていただきます。本日は小野和伸先輩をはじめ歴代会長の先輩方に於かれましては、大変貴重なお時間を頂戴し座談会へ御出席賜りまして誠にありがとうございます。先輩方のお話を伺うと、周年事業はもと

より、通常事業の中でも今も継続している稲作体験事業をはじめ、当会の活動が先輩方の御実績、また色々な繋がりに支えられ今も実施出来ていることを実感しているところでございます。御存知の通り創立七〇周年記念事業に於きましては、コロナ禍というところではなかなか事業の構築が難しい中、先輩方には御理解を頂き、会を応援して戴いているところでございます。今、コロナ禍で会員同士が膝を突き合わせて集まることが出来ない状況ではありますが、今回の座談会でお話戴きましたものを、周年事業の一つでもある記念会報の中にしっかりと残し、当会の一つの財産とさせて頂きたいと思っております。そして当会の活動が活発になった折には今日の貴重なお話を会員へ伝え、より神奈川神青が一層発展出来るよう、これからも我々現役会員は尽力して参りたいと思っております。引き続き御指導を賜りますように宜しく

お願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。(拍手)

小澤 本日は大変お忙しい中ご参集を賜り誠にありがとうございます。本座談会の中で、今日も継続されている事業の変遷や、先輩方が尽力された当時の会務運営状況など、多岐にわたる貴重なお話を拝聴して、現在の会務運営の中にある「当たり前」に感謝すると共に、今後の気付きを得ることが出来ました。また、様々なお話を伺う中で感

じたことは、やはり青年会は仲間づくりが大切であるという想いです。青年会活動を通し、当会の歴史を築いてこられた諸先輩方の想いを継承して行くこと、また次世代へと新たな想いを形にして行く中で、共に歩み得た仲間こそ掛け替えのない財産であると改めて確信致しました。これから会を担う後輩達に、先輩達同様、愛すべき神奈川神青を引き継いで行けるよう私自身も心新たに第3次でござい。今後とも当会への御指導御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。本日は大変貴重なお時間を頂き誠にありがとうございました。(拍手)

司会 長時間にわたりましてありがとうございました。先輩方の築き上げられたものを後輩達へ継承していきけるよう、この座談会の軌跡は記念会報へ掲載致します。今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。



歴代会長名簿

第一代会長	市川 和夫	第十一代会長	本牧 裕司	第二十一代会長	根岸 浩行
第二代会長	白井 永二	第十二代会長	石川 正人	第二十二代会長	守山 和宏
第三代会長	瀧本 正彦	第十三代会長	石川 國樹	第二十三代会長	瀬尾 剛良
第四代会長	平井 敏正	第十四代会長	草山 清和	第二十四代会長	佐野 巖
第五代会長	角井 光	第十五代会長	中村 知修	第二十五代会長	古木 普総
第六代会長	感見 武	第十六代会長	小泉 愉孝	第二十六代会長	小澤 篤至
第七代会長	龍山 正道	第十七代会長	小泉 浩之	第二十七代会長	川辺 浩司
第八代会長	吉田 周司	第十八代会長	小野 和伸	第二十八代会長	守屋 隆広
第九代会長	柳田 直継	第十九代会長	宮本 佳昭		
第十代会長	佐野 主水	第二十代会長	永井 武義		

神青協出向 歴代役員名簿

昭和24年度	白井 永二 (副議長・中央委員)	平成元・2年度	石川 正人 (遷宮委員長)
昭和25年度	市川 和夫 (中央委員)	平成3・4年度	石川 正人 (副会長)
昭和26年度	白井 永二 (副議長・中央委員)	平成5・6年度	石川 正人 (監事)
昭和27年度	市川 和夫 (中央委員)	平成7・8年度	草山 清和 (事業委員長)
昭和28・29年度	白井 永二 (副会長)	平成9・10年度	小野 和伸 (地区理事)
昭和30・31年度	白井 永二 (監事)		草山 清和 (指名理事)
昭和32・33年度	瀧本 正彦 (中央委員)	平成15・16年度	根岸 浩行 (指名理事)
昭和34・35年度	小野 和輝 (中央委員)	平成17・18年度	永井 武義 (総会議長)
昭和36・37年度	小野 和輝 (中央委員)	平成19・20年度	永井 武義 (副会長)
昭和38・39年度	小野 和輝 (中央委員)	平成21・22年度	佐野 巖 (遷宮委員)
昭和42・43年度	角井 光 (中央委員)	平成23・24年度	佐野 巖 (地区理事)
昭和44・45年度	角井 光 (中央委員・執行委員)	平成25・26年度	佐野 巖 (副会長)
	感見 武 (中央委員)		鈴木 敬一 (事業委員)
昭和46・47年度	多田 一馬 (理事)	平成27・28年度	佐野 巖 (監事)
昭和48・49年度	龍山 正道 (理事)	平成29・30年度	佐野 巖 (会長)
昭和50・51年度	龍山 正道 (常任理事)		守屋 隆広 (神宮啓発副委員長)
昭和58・59年度	石川 正人 (地区理事)		守屋 隆広 (総会議長)
昭和62・63年度	本牧 裕司 (指名理事)	令和3・4年度	小泉 匡史 (神宮啓発委員)

去る令和元年九月三日から四日に掛けて、当会創立七〇周年記念事業の先駆けとして「神宮奉告参拝」を行い、我々の総氏神様であります伊勢神宮へ、会長・実行委員長を始め十八名の会員と共に、当会が節目を迎えた事の奉告と感謝の赤誠を捧げて参りました。

初日は、新幹線・近鉄特急を乗り継ぎ伊勢の地へ降り立ち、先ず外宮にて御垣内参拝のご奉仕を頂いた後、多賀宮、土宮、風宮と参拝をさせて頂きました。その後、周年事業をこれから始めるにあたり先行きを明るく照らして頂くという会員の意見もあり「道開きの神」であります猿田彦神社へ向かい、正式参拝をさせて頂きました。夜には、お忙しい中にも関わらず神宮神道青年会と三重県神道青年会の皆様が駆けつけ、厚いおもてなしを賜り楽しく和やかに懇親を深める場を持つことが出来ました。

二日目は、内宮にて御垣内参拝のご奉仕を頂戴し、奉告の参拝と共に御神楽を奉納させて頂き、おかげ横丁でお昼を取った後、神宮神青の方々のご案内を受け御塩殿神社の参拝や神宮御用紙を製造されている大豊和紙工業株式会社の見学等致しました。

伊勢神宮への奉告参拝という極めて厳かな事業の中でも、普段はなかなか会えない他県の神青会同士達とゆつくり杯を交わしたり、レンタカーを借り和气藹々と移動したり、突然の



猿田彦神社にて



神宮神青山田会長による境内案内



創立七〇周年記念事業

神宮奉告参拝旅行

熊野神社 権瀬宜 松尾 寛一

大雨に苦笑いしたりと、いざ振り返ってみますと思いが尽きません。

此度の「神宮奉告参拝」を開催するにあたり、神奈川県神社庁様を始めご配慮頂きました多くの関係者皆様へ、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。参加者一同、此の伊勢の地にて深く受けました様々な感銘を、今後より

一層至誠敬虔の心へと活かし日々の神明奉仕へ邁進して参る所存でございます。

神奈川県神道青年会が発足されてより七十年の月日が流れ、我々現役会員は、先輩諸賢が築き上げられてきた歴史と連綿と受け継がれてきた伝統を後世に伝える責務を全うし、これから始まる創立七〇周年記念事業を通して更なる研鑽と会の発展に努めて参ります。



創立七〇周年記念事業

神奈川県戦没者慰霊祭

杉山神社 宮司 佐野 顕次

当会の神奈川県戦没者慰霊事業は、毎年の神奈川県戦没者慰霊堂大祭の奉仕等がありますが、特に周年事業としては、創立五十五年記念事業として関内ホールに於いて「慰霊の集い」として、初めて一般戦災死没者への慰霊行事を執り行いました。この慰霊の集いを皮切りに、一般戦災死没者の御霊が恒久的に慰霊なされるよう県や遺族会と協議を重ね、創立六〇周年記念事業として、神奈川県戦没者慰霊堂に於いて「神奈川県下大空襲一般戦災死没者合祀慰霊祭」を斎行し、一般戦災死没者の御霊が慰霊堂に合祀され、慰霊祭が行われました。その後も創立六十五周年記念事業として「神奈川県戦没者慰霊祭」を斎行し英霊と一般戦災死没者の御霊へ慰霊と感謝の誠を捧げて参りました。

神職の使命として世界平和を祈念し、戦争の惨禍を風化させることなく次代に継承するべく、七十五年前に神奈川県下に大空襲の惨禍があった、令和二年五月二十九日に、神奈川県戦没者慰霊堂にて「神奈川県戦没者慰霊祭」を斎行する計画を進めておりました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により当県でも緊急事態宣言が発出されると、神奈川県慰霊堂及び平和祈念館の施設が臨時閉鎖され、県慰霊堂での慰霊祭が出来なくなっていました。

一時は中止や延期も止む無しと思われましたが、たとえどのような状況下であっても慰霊祭を斎行しようとする実行委員会が協議をし、慰霊堂での慰霊祭を予定していた令和二年五月二十九日に戸部杉山神社の神楽殿を斎場とし、参列者は役員を代表し正副会長と監事に制限する等、規模の縮小を余儀なくされながらも、「神奈川県戦没者

慰霊祭」を厳粛に斎行致しました。また祭典後には参列した役員一同で慰霊堂へ参拝と献花に赴き、慰霊の誠を捧げ、恒久平和を祈念致しました。

日時・斎場	令和二年五月二十九日 午前十時三十分斎行 於 戸部杉山神社神楽殿
所 役	斎主―佐野 顕次【斎服】 典儀―利根 伸介【浄衣】
式次第	先 修 祓 次 降 霊 の 儀 次 献 饌 次 献 饌 次 祭 詞 奏 上 次 玉 串 拝 礼 次 撤 饌 次 昇 霊 の 儀



奉 幣



斎場となった杉山神社神楽殿



今回の創立七〇周年記念事業においてもこれを引き継ぎ、令和二年十月七日、伊勢山皇大神宮並びに横浜迎賓館を会場とし「お宮逢

の要素も組み込みながら、結婚促進事業「お宮逢ひ」を開催し、一定の成果を挙げる事が出来ました。

こういった状況を打開すべく当
会創立六十五周年記念事業におい
て、県内独身青年神職に一般女性
との出会いの場として、神道教化

う機会は限られ、未婚率の上昇、晩婚化は今や社会問題となつていきます。

県内青年神職には独身者が多く、恋愛や個人の人生観は人それぞれとはいえ、斯界の未来を考えますと後継者問題にも繋がる看過できない問題です。斯界外においても、社会人になると男女の出会



目枝大神社
宮司 中村友郎

結婚促進事業「お宮逢ひ」

創立七〇周年記念事業



一般会の方を募る事業を実施する事は極めて困難である、と判断し開催中止と致しました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により止む無く延期となり、その後、会員同士の

ひ」の開催を予定致しました。前回の見習うべき点や反省点を踏まえ、より良い懇親の場となる事、そして前回以上の成果を挙げる事を目標に、鋭意努力を重ねて参りました。



インド平和記念碑での参拝



参拝記帳をする守屋実行委員長



インパール平和資料館にて



資料館の説明を受ける一同



創立七〇周年記念事業

平和の祈りinインパール

六所神社 柳田 崇道

当会創立七〇周年記念事業として令和二年六月にインド共和国マニプル州、インパール平和資料館に於いて慰霊祭を実施する予定でございましたが、コロナ禍の為誠に残念ながら延期となっております。

この事業は、戦後七十五年を経過した中で、世界各地の戦地において慰霊祭が斎行されましたが、インパールやその周辺地域では、峻烈を極めた激戦が交わされたにも関わらず神道での慰霊祭が未だに執り行われておらず、この度インパール及びコヒマやその周辺地域で亡くなられた日本軍、インド国民軍、英印軍、市民の御霊の慰霊と世界平和のための真摯な祈り

を捧げたく計画を致しました。それに伴いコロナ禍直前の令和元年十二月に守屋実行委員長を始め計五名にて現地視察を実施致しました。慰霊祭会場となりますインパール平和資料館は、日本財団が出資し令和元年六月開館の新しい施設でインパール作戦と同州の伝統文化について展示解説されております。同館はマニプル観光協会によって運営されており、事務局長ジョイレンバ氏を始め四名については大変友好的に受け入れて頂き、現地の方々の参列申し出や神饌手配・同州伝統宗教との交流

を提案頂くなど非常に有意義な打合わせとなりました。打合せの後には、資料館に隣接する平成六年日本政府により竣工したインド平和記念碑と現地有志により建立されたインパール作戦戦没者勇士の碑に於いて供物を捧げ拝礼致しました。

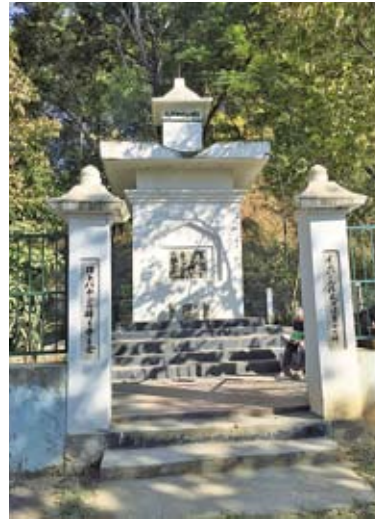
コロナ禍が無事終息し、平常に戻りましたら同地にて真心込めた慰霊祭を斎行致したく存じます。これを通じて戦争に深い思いを馳せ、多くの犠牲によって今日の平和があることを再認識し、更なる恒久な世界平和へと導いていけるよう祈りを捧げたく存じます。



インド国民軍博物館



英霊の碑



この事業につきましては、周年事業費より特別事業積立金へ海外慰霊祭費として繰入れることが、令和三年度定例総会に於いて承認されました。状況が落ち着きましたら、特別事業として再度計画を行う予定です。



インパールの風景



令和三年七月十三日・十四日、

そごう横浜店新都市プラザにて天皇陛下御即位奉祝パネル展「令和の祈り」を開催致しました。

当事業は元来令和二年七月に予定をしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延にて立皇嗣の礼が延期となり、また悪疫の感染状況を考慮し、一時延期とし、日々の状況を注視し、開催日程について模索して参りました。

令和三年一月には首都圏四都県、後に七府県が追加となる再度の緊急事態宣言、また同年四月末からの東京都を含む四都府県の緊急事態宣言の発出と、陽性者の増減を繰り返す日々の中ではありませんでしたが、令和二年十一月に立皇嗣の礼が行われ、御大典に関する諸祭・諸行事が全て納められた事を受け、新規陽性者数も落ち着いてきた令和三年五月の実行委員会にて同年七月の開催が決議されました。

開催に際しては、感染症への対策を念頭に、如何に皇室敬慕の念を醸成する展示内容となるかを協議し、神社本庁作成「令和御大典記録写真」のパネルを主とし、コロナ禍にて行われた令和三年歌会始の様子や、感染症蔓延下においても変わらず国民に御心をお寄せになられる天皇皇后両陛下のオンラインでの行幸啓や、宮中行事の写真をパネルにし展示致しました。

会場レイアウトも密集・密接を避けるよう、通常時に開催しているパネル展よりもパネル間を開け、通路となる部分も広く取るように変更しました。また各所に消毒用アルコールを設置、感染予防を呼び掛けるポスターの掲示し、展示空間内の空気が籠らぬように送風用の扇風機を設置し、出来る限りの感染対策を行いました。

新規陽性者数が減少傾向ではあったものの、新型コロナウイルスの蔓延下での事業となり、果たしてどの程度の来場があるのか、助勢する会員の安全は確保されているかと、不安は尽きませんでした。蓋を開けてみると、神社本庁よりお預かりした冊子「奉祝天皇陛下御即位 令和の御大典」は用意した二千部が初日に無くなりかけ、急遽三百部を追加し二千三百部全てを配布することができ、備え付けておいた令和四年の歌会始詠進要領も二百五十枚程を手にとって頂く等、多くの方にご来場頂きました。

新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、周年事業は元より、通常事業においても参加が難しい中であって、無事に開催まで漕ぎ着けることが出来たことは何よりの僥倖であり、助勢して頂いた会員の皆様を始め、参加をお許し頂いた各社宮司様には感謝の念に堪えません。

このパネル展を通じ、皇室への理解と尊崇の念を醸成し、令和の御代も皇室と国民が共に歩み進んでいく御代となる一助となる事を切に望むと共に、悠久なる皇室の御安泰を祈念申し上げます。





「令和」の元号の典拠となった我が国最古の歌集「万葉集」では地位や貧富の差に関係なく善し悪しで選ばれた様々な歌が掲載され、和歌の前においては身分の上下はないという我が国古来の伝統が今なお息づいているのが歌会始であり、皇室と国民の心を親しく結ぶ宮中の行事として日本全国のみならず海外からも多くの歌が毎年寄せられております。

平成より令和へと御代が替わり、今上陛下が御即位なされて初めて行われる、この歌会始の儀へ、会員一同奉祝の想いを届けるべく詠進の勸奨を企画し、会員全員での詠進を目標に、担当者を支支部へ配置して継続的な声掛けを行い、全会員の八割を超える一〇一首の歌を詠進致しました。

本事業は、実行委員会にて話し合いを重ねていく中、通年事業に取り入れ継続的に詠進を行う運びとなり、続く令和三年、令和四年

の歌会始にも青年会取り纏めの
上、団体詠進を行いました。この
動きは全国に広がり、神道青年全
国協議会より全国の各単位会へ令
和四年歌会始への詠進勧奨がな
されました。



さらには、短歌への教養を深めるべく、令和三年・四年と鎌倉歌壇会長・瑞泉寺住職の大山一真先生を講師にお招きし、短歌研修会を行いました。令和三年は新型コロナウイルス感染症防止の観点からウェブシステムZoomを用いて、また令和四年は感染対策を



短歌研修会の様子



パネル展での周知用ブース

行い参集して開催致しました。

また、令和三年七月に行つた天皇陛下御即位奉祝パネル展「令和の祈り」では、当初の展示内容とは変更を余儀なくされましたが、その中で令和三年歌会始の御製・御歌を始め、選歌を展示し、誰もが詠進を行えるという事を多くの方へ周知できるように、令和四年歌会始の詠進要綱を配布致しました。

日常の出来事や感じたことを、限られた文字数の中で表す短歌は、自身の内面を見つめ、言葉を吟味する等、祝詞の作文にも通じ、様々な素養を高める事にも繋がります。歌会始の詠進を通して、皇室敬慕の念を醸成していくと共に自己の錬磨に務め、この事業にて詠進した歌が披露される未来を夢見ております。



創立七〇周年記念事業

創立七〇周年記念大会

八幡大神 権禰宜 小 泉 匡 史

当初、令和二年九月二日に開催

した。

を予定しておりました神奈川県神道青年会創立七〇周年記念大会は、折からの新型コロナウイルス感染症蔓延の影響から延期を余儀なくされ、令和三年十月十八日、横浜ロイヤルパークホテルにて改めて開催をする方針で準備を進めていく事となりました。しかしながら、令和三年夏頃からの感染症再蔓延の影響を受け、ここでも大幅な方針転換を迫られる事となります。招待者をほぼ神奈川県内の関係者のみに限定し、記念講演を含む記念式典並びに祝賀会という従来の記念大会の開催形態から、記念講演を割愛した記念式典のみの開催へ変更、また近年多発する重大な自然災害への危機意識を啓発するため防災展示場を設置するなど、何とかして開催に漕ぎ着けられる様、そして縮小開催の中でも極力質を落とす事の無い様、試行錯誤と検討を積み重ねて参りま

した。しかし、開催日が目前に迫る中でも日に日に感染者が増加していく現実を受け止めざるを得ず、招待者の方々また会員の安全を考慮し、断腸の思いでありましたが記念大会の開催中止を決定致しました。決定に当たっては、再延期も視野に議論を重ねておりましたが、次期周年事業への影響も危惧される事からこれは見送られました。

そこで、当会創立七〇周年にあたり多くの方々にお力添えを頂き、予定していた周年事業の中で完遂出来た事業報告も含め、今回の創立七〇周年記念事業に一つの区切りを打つものは必要であると考え、本来記念式典の中で放映を予定していた記念事業報告映像に編集を加え、皆様への感謝の意を少しでもお伝えするべく創立七〇周年記念事業報告映像を当会ホームページ上で配信する事と致しま

した。映像の内容としましては、当会会長守屋隆広の挨拶から始まり、「生児八十綿連うみのこのやそつづき」の事業指針に沿って神奈川県神道青年会が発足してからこれまでの軌跡を纏めるものと致しました。

この映像制作に当たり、当会の軌跡を遡って深く調べていくうちに、先輩諸賢がその精神と活動をどのように代々引き継がれ今日に至って来たのかを再認識する事が出来ました。歴史を紡いでいくことの大切さ、そして、神奈川県神道青年会創立六〇周年の事業指針でもありました「ゆるぎなき継承の心」も汲み取ることができ、非常に有意義な時間になったと感じております。今回の創立七〇周年記念事業報告映像が、皆様への感謝の意を少しでもお届けするものとなれば大変幸甚に存じます。

さらにこれに加えて、神職の本儀である「祈り」を捧げることが大切だと考え、記念大会開催予定日でありました令和三年十月十八日に、当会会員それぞれの奉務神社また神青協一都七県協議会の同志の皆様にもお声掛けをさせていただき「感染症早期終息祈願祭」を斎行いたしました事も併せてご

報告申し上げます。(次頁掲載)
今回の記念大会開催への取り組みを通して、否定的な事象が続く中でもその中でできる肯定的な事象を見つけ出し、当会の軌跡の歩みを少しでも進めることができたのではないかと感じております。今後もこの歩みを止めることなく引き続き邁進して参りたいと存じます。



記念大会中止のご報告（当会HP掲載の動画より）

新型コロナウイルス感染症早期終息祈願祭



鈴鹿明神社（神奈川県）



伊勢山皇大神宮（神奈川県）



箱根神社（神奈川県）



森戸大明神（神奈川県）



本牧神社（神奈川県）



稲毛神社（神奈川県）



伊勢原大神宮（神奈川県）



八幡大神（神奈川県）



下高井戸八幡神社（東京都）



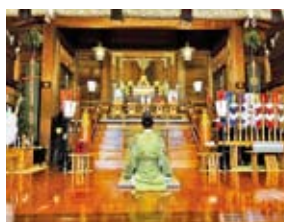
日枝大神社（神奈川県）



星川杉山神社（神奈川県）



師岡熊野神社（神奈川県）



大宮八幡宮（東京都）



多摩川浅間神社（東京都）



諏訪神社（東京都）



五條天神社（東京都）



宇都宮二荒山神社（栃木県）



大宮神社（千葉県）



千葉県神道青年会



磐井神社（東京都）



瀧尾神社（栃木県）



大前神社（栃木県）



下野星宮神社（栃木県）



益子鹿島神社（栃木県）

新型コロナウイルス感染症早期終息祈願祭



芳賀天満宮（栃木県）



白鷺神社（栃木県）



乃木神社（栃木県）



日光二荒山神社（栃木県）



飯玉神社（群馬県）



榛名神社（群馬県）



三峯神社（群馬県）



伊勢崎神社（群馬県）



富士山小御嶽神社（山梨県）



新屋山神社（山梨県）



住吉神社（山梨県）



稲積神社（山梨県）



笠間稲荷神社（茨城県）



浅間神社（山梨県）



北口本宮富士浅間神社（山梨県）



武田神社（山梨県）



大洗磯前神社（茨城県）



常磐神社（茨城県）



酒列磯前神社（茨城県）



健田須賀神社（茨城県）



八坂神社（茨城県）



八坂神社（茨城県）



筑波山神社（茨城県）



大寶八幡宮神職 自宅神棚にて(茨城県)



創立七〇周年記念事業

こども神社体験学習

寒川神社 権瀬宜 立岩 秀夫

神奈川県神道青年会創立七〇周年記念事業の一画として開催予定でありました「こども神社体験学習」ですが、新型コロナウイルス感染症の蔓延を考慮し、令和二年の開催は延期、翌年に希望をかけておりましたが、残念ながら感染症の猛威は収まることを知らず、令和三年を以って中止という決断が下りました。次期周年事業に希望を託す為、開催概要と行程案を記します。

当事業は、次世代を担う子ども達への神道教化を主題とし、神様を日々の生活の中に感じてもらうことで、崇敬の念を育み、次の世代、さらに次の世代へと、神社に対する信仰を継承していく、まさに「生児八十綿連」の創立七〇周年記念事業の主題に一番合致した事業であったかと思えます。

開催場所は実行委員会の中でも長い時間をかけ選定しました。運営と立地、そして行程の多様性を選択できる三浦郡葉山町鎮座 森戸大明神での実施が決定していました。一番の決め手となったのは、やはり海岸での禊の体験でした。神道教化の中にあって、禊の体験は何にも代えがたいものがあり、また守屋実行委員

長の熱い思いもあり、禊が出来る場所が選ばれました。

当事業を行うにあたり、経験値が不足する我々は、東京都神社庁様にて行われている「なつやすみ子供神社体験学習」を参考に、各種体験内容の精査が始まり、左記項目の実施が提案されました。

- ・ 神道講話（参拝作法など）
- ・ 神社案内（神社の由緒、建築など）
- ・ 祓詞浄書
- ・ 神社周辺散策
- ・ 夜間参拝
- ・ 禊体験
- ・ 境内清掃体験
- ・ 白衣袴着用体験
- ・ 御守製作
- ・ 神奈川県神社庁教化委員会 神話語り部チームによる

「親子で楽しむ日本の神話」

盛り沢山な二日間を子ども達に与えたいとの思いから山本副実行委員長の元、日々会議が進められました。一番考慮した点は子どもたちの体調の事でした。対象となるのは小学校四年生から六年生までといえ、親元を離れての二日間となります。また子ども毎に様々な性格（好き嫌いやアレルギー、生活の注意点）が

あるので、それらを把握し、二日目に無事に親元へ還すことが出来るのか。様々な事項を協議し、最終的にそれらを事前に保護者から聴取し、対策を練ること、更に最悪の事態の発生を考え、病院看護師の派遣を実施頂くべく、高座郡寒川町鎮座 寒川神社宮司利根康教様に依頼し、寒川病院からの看護師の派遣が決定しました。また禊を実施するにあたり子ども達に正しく教化するべく、神奈川県神社庁錬成行事助彦である、川崎市川崎区鎮座若宮八幡宮宮司中村博行様に講師を依頼しました。その他、神社での各種講座や案内については、守屋実行委員長が務めることに決定しました。

実施にあたり、令和二年二月に入念な下見が実施されました。実際に訪問する場所を巡り、滞在時間、移動時間、場所の確認、子ども達の誘導の事、食事の事、お風呂の事、その他諸事に至るまで、検討を重ね、更に不足があるのではと日々確認を行いました。

ちょうどその頃、新型コロナウイルス感染症の蔓延に世間は騒ぎ出し、計画に暗雲が掛かりました。出来るなら実施したいと準備を進めましたが、延期が決定されました。その後、来年



こそはとリスクヘッジしながら日帰りでの事業の考案もなされましたが、時世を考慮し、また子ども達の安全を最優先した結果、令和三年での実施もかなわず、中止の決定となりました。

今期は実施することはないかもしれませんが、子どもの教化は神道教化にあつては最優先の課題です。高齢化社会を迎え、更には崇敬者や神社維持の役を担っている人々の大半が高齢者であることを考えると、神社神道を次世代に繋ぐためには、より一層力を込めて実施しなければならぬ課題であります。

当事業の推進にあつた実行委員の思い、また守屋実行委員長の熱い思いを次期周年記念事業に繋がるよう思いを込め、軌跡となるよう各項目を網羅しました。この素晴らしい事業がいつの日か実を結ぶ様に祈念致します。

創立七〇周年記念事業の一つとして今回「顔写真入り神職手帳」の作製を担当させていただきました。

創立四十五周年記念事業から発刊を続けている神職手帳を引き継ぐに当たり、今回は顔写真と神社の写真を少し大きく掲載し、各神社の例祭日を記載、各支部の地域地図を入れる等、さらに見やすく、また多くのデータを盛り込んで作製致しました。

当初の予定では令和二年八月の発刊を目指し、県内神職の皆様にご協力をお願いしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により掲載内容の収集が困難になりました。状況を見ながら皆様から少しずつデータをお預かりし、令和三年一月にようやく発刊することができ、県内神社にお配りすることが出来ました。

コロナ禍での製作作業になりま



したが、ご協力いただいた県内神職の皆様、そしてコロナ禍の活動が困難な状況の中で取り纏めと内容の精査に尽力いただいた会員の皆様に深く感謝申し上げます。
本事業で作製致しました「顔写真入り神職手帳」が県内神職皆さまの相互交流の一助になれば幸いです。

創立七〇周年記念事業

顔写真入り神職手帳

日枝神社 榎宜 山本喜道



会 報 神 奈 川

令和4年10月15日
発行所 神奈川会
会長 守屋隆広
〒210-0864
神奈川県横浜市中区小田2-14-7
電話：044(333)1046
http://www.k-shin.jp/shinshoku

会報神奈川

創立七〇周年記念号

神奈川県神道青年会

創立七〇周年記念事業の集大成として会報「神奈川」の記念号を発行致します。
新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け記念大会が中止となったこともあり、講演録の収録

が不可能となったため、記念号のメイン企画として「歴代会長座談会」を開催。当会の歴史や諸先輩方の想いを繋ぐと共に、本周年事業の記録を次世代へ継承致します。

創立七〇周年記念事業

会報「神奈川」

創立七〇周年記念号

鶴岡八幡宮 榎宜 神谷直樹



創立七〇周年

記念事業を終えて

天神社 宮司 川 辺 浩 司

先ず以て、本周年事業に際しまして、神奈川県神社庁を始め県内宮司、先輩諸賢、友好団体各位におかれましては多大なるご支援とご高配を賜りました事、衷心より厚く御礼申し上げます。

当会は先輩諸賢が戦後の混乱のなか、祖国の再建と神道興隆を掲げ昭和二十四年に結成され、斯界の尖兵たる自覚を持ち多くの活動の中受け継がれてきました。創立七〇周年記念事業は事業指針に「生児八十綿連うみのこのやそつづき」を掲げ、先輩諸賢の足跡を継承し次代に受け継ぐために、新型コロナウイルス感染症による影響を受けながらも、守屋実行委員長を中心に会員一丸となって各事業の完遂を目指し努力して参りました。

令和元年の神宮奉告参拝旅行から始まりました周年事業は、顔写真入り神職手帳の作製、天皇陛下御即位奉祝パネル展を感染症による延期等もありながら妥協することなく実施し、神奈川県戦没者慰霊祭は、七十五年前に神奈川県下で横浜市を中心地域とした大空襲の惨禍があった令和二年五月二十九日に規模を縮小しながらも祭祀を執り行い、先輩諸賢が努められてこられた慰霊祭祀の厳修の真心を継承致しました。また、令和の御代になり初めての歌会始の詠進

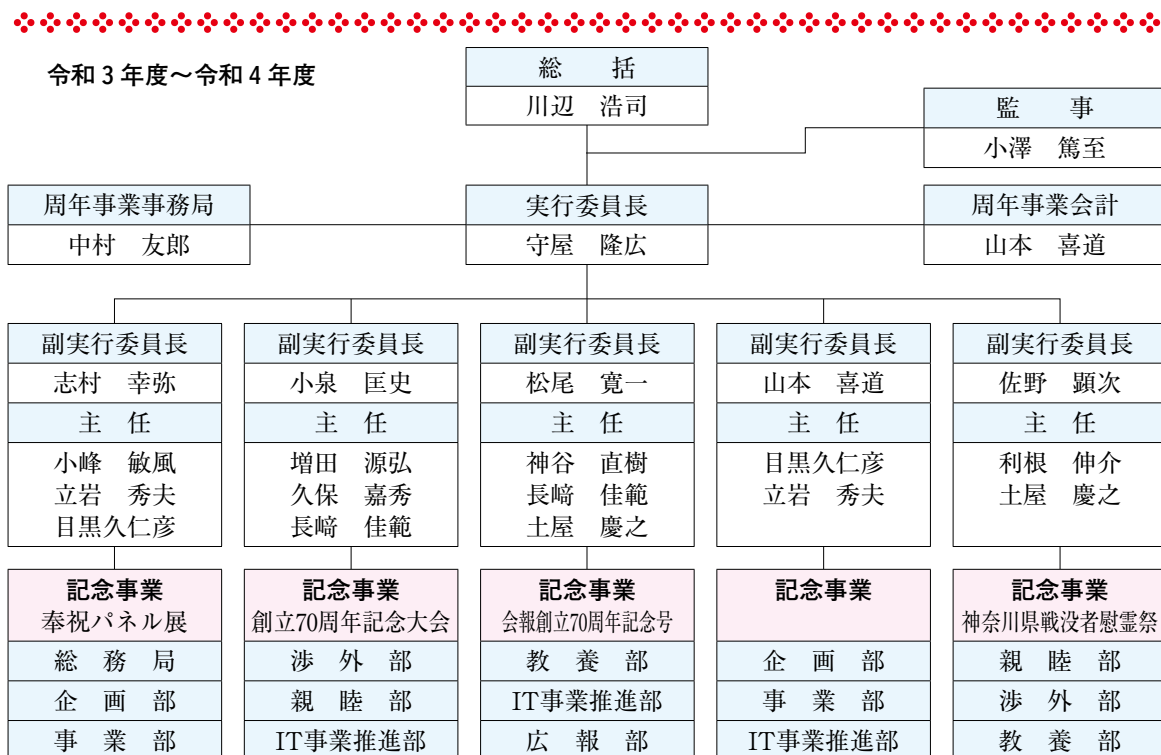
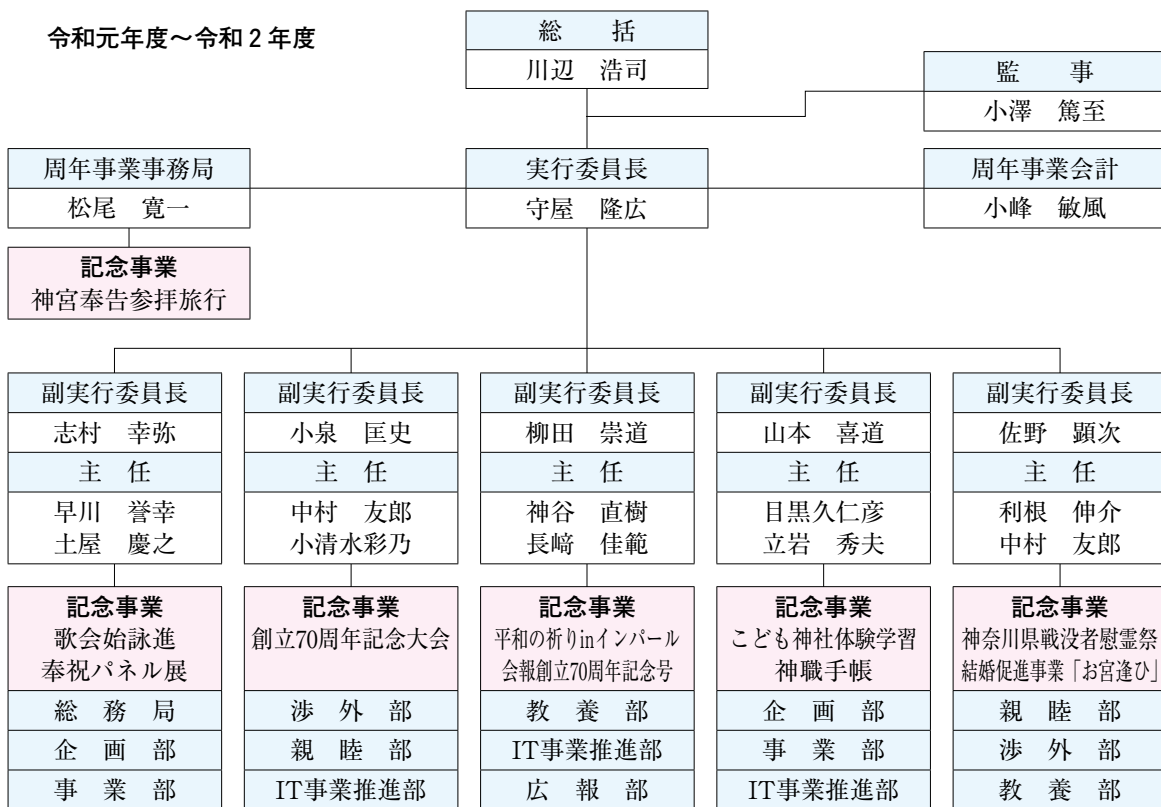
では当会会員一〇一首の歌を詠進し、その後も本事業を通年事業として継続して実施することとなり、新たな継承事業の構築につなげることができました。創立七〇周年記念大会、結婚促進事業「お宮逢ひ」、こども神社体験学習は感染症の影響により中止の判断となりましたが、海外戦没者慰霊祭「平和の祈りinインパール」は、未だ神道での慰霊祭が執り行われていないインパールにおいて慰霊の真心を捧げることができるよう、今後当会の特別事業での実施に向けて準備を進めて参ります。

また周年事業のまとめとなる記念会報発刊にあたり、第十八代小野和伸先輩をはじめ歴代会長のご参集を仰ぎ座談会を開催させていただきました。詳細は当会報にまとめられておりますが、座談会では様々な事業が歴代会長の高い志と行動力、そして多くの仲間を支えられ受け継がれてきたことを改めて伺うことができました。先輩諸賢が築き上げてこられた歩みを会員相互に自覚を持ち継承して参りたいと思います。

当初の計画に基づき着実に準備を進めながらも感染症の影響により延期や実施が叶わなかった事業もありましたが、この難局の中会員各位のご協力により本周年事業を完遂することができました。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。間もなくして創立七十五周年に向けた準備が進められることとなりますが、本周年事業で培われた多くの経験、そして会員の思いを受け継いで頂ければと思います。

結びに、今後とも当会の活動に際し、皆様の変わらぬご理解とご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、本周年事業終了に際しましてのご挨拶とさせていただきます。

創立70周年記念事業 実行委員会組織図



神奈川県神道青年会 創立70周年記念事業 収支中間報告

収 入 計	11,500,065
支 出 計	3,191,103
収支差異	8,308,962

◆収入の部

(単位：円)

内 容	予算額	決算額	差 額	備 考
1 会員拠出金	2,370,000	1,830,000	△ 540,000	会員127名中90名分
2 協 賛 金	6,110,000	6,620,000	510,000	9 社 神青会OB・県内神社196名中109名 神社庁 10支部（各50,000） 県総連他 15件分
別表神社	1,950,000	2,350,000	400,000	
県内神社	2,850,000	2,930,000	80,000	
神社庁	500,000	500,000	0	
各支部	500,000	500,000	0	
関係団体	310,000	340,000	30,000	
3 広告協賛金	400,000	0	△ 400,000	依頼を中止
4 雑 収 入	620,000	50,065	△ 569,935	
5 繰 入 金	3,000,000	3,000,000	0	歳計調整資金より繰入
合 計	12,500,000	11,500,065	△ 999,935	

◆支出の部

(単位：円)

内 容	予算額	決算額	差 額	備 考
1 記念大会費	7,000,000	584,418	△ 6,415,582	
2 記念事業費	4,750,000	2,232,384	△ 2,517,616	神饌・生花・玉串料 延期 ※特別事業積立金へ繰出 神宮参拝 中止 中止 歌会始、パネル展 現在制作中
県戦没者慰霊祭	300,000	35,520	△ 264,480	
神職名簿	650,000	595,100	△ 54,900	
海外慰霊祭	850,000	850,000	0	
70周年奉告参拝旅行	150,000	94,634	△ 55,366	
子供体験学習	600,000	37,031	△ 562,969	
結婚促進事業	600,000	0	△ 600,000	
奉祝事業	900,000	620,099	△ 279,901	
会報70周年記念号	700,000	0	△ 700,000	
3 事務通信費	400,000	364,301	△ 35,699	
4 会 議 費	50,000	10,000	△ 40,000	2 回分
5 予 備 費	300,000	0	△ 300,000	
合 計	12,500,000	3,191,103	△ 9,308,897	

令和 4 年 3 月31日現在

創立七〇周年記念事業御協賛芳名簿（順不同・敬称略）

〔神社庁・支部〕

◆金、伍拾萬円

神奈川県神社庁

◆金、伍萬円

川崎支部

横浜北支部

横浜中支部

横浜南支部

鎌倉横須賀三浦連合支部

相模湘南支部

相模中央支部

相模原支部

相模中連合支部

足柄小田原支部

〔関係団体〕

◆金、壹拾萬円

神道政治連盟神奈川県本部

◆金、伍萬円

神奈川県神社保育連合会

中・平塚・伊勢原連合神社総代会

◆金、参萬円

神奈川県神社総代会連合会

◆金、壹萬円

神奈川県女子神職会

神奈川県神輿保存会

横浜市神社総代会連合会

鎌倉横須賀三浦連合氏子総代会

藤沢市氏子総代会

相模原市氏子総代会

相模中央氏子総代会

高座氏子総代会

横浜雅楽会

神奈川県教育関係神職協議会

藤沢湯立神楽保存会

〔県内神職〕

◆金、伍拾萬円

鶴岡八幡宮

寒川神社

◆金、参拾萬円

江島神社

◆金、貳拾伍萬円

箱根神社

◆金、貳拾萬円

伊勢山皇大神宮

大山阿夫利神社

◆金、壹拾伍萬円

稲毛神社

報徳二宮神社

◆金、壹拾萬円

八幡大神

熊野神社

熊野神社

富岡八幡宮

富岡八幡宮

鈴鹿明神社

村富神社

宮司 吉田 茂穂

宮司 利根 康教

宮司 相原 園彦

宮司 小澤 修二

宮司 阿久津裕司
宮司 目黒 仁宮司 市川緋佐磨
宮司 草山 明久禰宜 小泉 浩之
宮司 石川 正人

権禰宜 瀬尾 剛良

宮司 佐野 主水

禰宜 佐野 巖

宮司 古木 普総

宮司 根岸 浩行

六所神社	宮司	柳田 直繼	御靈神社	宮司	菊地 晋介	八幡神社	宮司	宮崎 常嘉	中村八幡宮	宮司	椎木 葉子	日枝神社	宮司	角井 瑞	杉山神社	宮司	平岡 好晃	杉山神社	權禰宜	石原 誠人	神明社	宮司	山本 雅道	住吉神社	宮司	吉田 盈一	天照皇大神	宮司	岩澤 具治	◆金、參萬円	川勾神社	宮司	二見 直樹	森戸大明神	宮司	守屋 大光	浅間神社	宮司	吉田 周司	神鳥前川神社	宮司	豊浦 崇男	琴平神社	宮司	志村 幸男	八幡大神	宮司	小泉 愉孝	女牀大神	權禰宜	伊藤 俊州	◆金、伍萬円	笠程稻荷神社	宮司	小野 和伸	◆金、七萬円	曾屋神社	權禰宜	守山 和宏	御嶽神社	宮司	永井 武義	比々多神社	宮司	宮本 佳昭	伊勢原大神宮	宮司	宅野 順彦	平塚八幡宮	宮司	皇大神宮	叶神社	宮司	感見 達也	杉山神社	宮司	土岐 頼延	八幡大神	權禰宜	水谷 聖史	日吉神社	宮司	相原 鎮雄	日吉神社	宮司	齊藤 勝幸	王子神社	宮司	小野ともみ	浅間神社	宮司	吉田 俊和	皇太神宮	宮司	松橋 孝行	神明社	宮司	飯塚 充	神明社	權禰宜	橋本孝太郎	橘樹神社	宮司	久保寺瑞衣	神明社	宮司	伊佐地誠嗣	諏訪社	宮司	橋田 嘉紀	杉山神社	宮司	寶積 尚熙	杉山神社	權禰宜	寶積 章磨	堀之内稻荷神社	宮司	近藤 岳雄	浅間神社	宮司	松本小寿恵	八幡神社	宮司	三浦 武	青木神社	宮司	石井 晨	松尾神社	宮司	楠林 正將	諏訪神社	宮司	小池 千穎	雷神社	宮司	秋山 貞治	天神社	宮司	早川 智好	海南神社	宮司	米田 郷海	鶴沼伏見稻荷神社	宮司	田村 進	宇都母知神社	宮司	泊瀬川 哲	寒川神社	權禰宜	櫻井 貴基	第六天神社	宮司	櫻井 明彦	鶴嶺八幡社	宮司	能條 憲夫	柏山稻荷神社	宮司代務者	飯田 啓	深見神社	宮司	山口 正雄	神明社	宮司	仙波 誠一
------	----	-------	------	----	-------	------	----	-------	-------	----	-------	------	----	------	------	----	-------	------	-----	-------	-----	----	-------	------	----	-------	-------	----	-------	--------	------	----	-------	-------	----	-------	------	----	-------	--------	----	-------	------	----	-------	------	----	-------	------	-----	-------	--------	--------	----	-------	--------	------	-----	-------	------	----	-------	-------	----	-------	--------	----	-------	-------	----	------	-----	----	-------	------	----	-------	------	-----	-------	------	----	-------	------	----	-------	------	----	-------	------	----	-------	------	----	-------	-----	----	------	-----	-----	-------	------	----	-------	-----	----	-------	-----	----	-------	------	----	-------	------	-----	-------	---------	----	-------	------	----	-------	------	----	------	------	----	------	------	----	-------	------	----	-------	-----	----	-------	-----	----	-------	------	----	-------	----------	----	------	--------	----	-------	------	-----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	--------	-------	------	------	----	-------	-----	----	-------

〔県外神職〕

◆金、壹萬円

八坂神社

権禰宜 今崎 聡

林神社

宮司 水島 泉

豊受大神

宮司 岩崎 紀夫

五社神社

禰宜 栗原 拓児

稲荷神社

宮司 石井 直樹

金刀比羅神社

宮司 本多 稔

◆金、伍仟円

相州春日神社

宮司 高橋 安彦

相州春日神社

宮司 高橋 安彦

思金神社

宮司 平野 正兼

白笹稲荷神社

宮司 泉 博允

宗我神社

宮司 飯沼 昌宏

八幡神社

宮司 石塚 克正

今泉神社

宮司 沖津 善弘

寄木神社

宮司 鈴木 一雄

日々神社

宮司 安西 圭市

川尻八幡宮

禰宜 浅原 文子

氷川神社

宮司 浅原 寛

氷川神社

宮司 茶志川 孝子

皇武神社

宮司 甲賀 裕樹

中津神社

宮司 毛利 淳夫

熊野神社

宮司 飯谷 秀典

龍藏神社

宮司 飯谷 秀典

〔会 員〕

◆金、壹拾萬円

天神社

宮司 川辺 浩司

森戸大明神

禰宜 守屋 隆広

箱根神社

禰宜 小澤 篤至

◆金、伍萬円

六所神社

禰宜 柳田 崇道

杉山神社

宮司 佐野 顕次

琴平神社

禰宜 志村 幸弥

熊野神社

禰宜 松尾 寛一

伊勢山皇大神宮

禰宜 小峰 敏風

日枝神社

禰宜 山本 喜道

◆金、參萬円

日枝大神社

宮司 中村 友郎

八幡大神

禰宜 小泉 匡史

熊野神社

禰宜 清水 彩乃

伊勢山皇大神宮

禰宜 利根 伸介

鶴岡八幡宮

禰宜 神谷 直樹

寒川神社

禰宜 立岩 秀夫

大山阿夫利神社

禰宜 目黒久仁彦

◆金、貳萬円

琴平神社

禰宜 志村 結里

熊野神社

禰宜 日下部 成信

伊勢山皇大神宮

禰宜 小菅 康弘

伊勢山皇大神宮

禰宜 増田 源弘

神明社

禰宜 安達 大輔

神明社

禰宜 隅川 由紀恵

杉山神社

禰宜 平岡 理恵

杉山神社

出仕 勝俣由香葉

住吉神社

宮司 雨宮 知詩

杉山神社

禰宜 上原 範子

岡村天満宮

禰宜 伊藤 直晃

富岡八幡宮

禰宜 佐野 若菜

富岡八幡宮

禰宜 阿部 友哉

鶴岡八幡宮

禰宜 宮本 龍一

天神社

禰宜 早川 誉幸

天神社

禰宜 早川 道子

白山神社

禰宜 菊池 真

江島神社

禰宜 相原 侑一郎

寒川神社

禰宜 小澤 佳次

鈴鹿明神社

禰宜 久保 嘉秀

鈴鹿明神社

禰宜 上杉 翔樹

伊勢原大神宮

禰宜 岩地 太朗

御嶽神社

禰宜 草山 和泉

箱根神社

禰宜 伊藤 政好

箱根神社

禰宜 土屋 慶之

箱根神社

禰宜 新井 賢

貴船神社

禰宜 平井 倫行

五所神社

禰宜 西山 桂子

◆金、壹萬円

稲毛神社

禰宜 長崎 佳範

杉山神社

禰宜 金子有美子

琴平神社

禰宜 大竹 晴子

琴平神社

禰宜 石井 裕人

伊勢山皇大神宮

禰宜 水谷 友哉

伊勢山皇大神宮

禰宜 椿 拓磨

伊勢山皇大神宮

禰宜 首藤 薫

杉山神社

禰宜 岡村 恵太

寒川神社	権禰宜	石垣	仁薫
寒川神社	権禰宜	松岡	拓司
座間神社	権禰宜	小野	彰
御嶽神社	権禰宜	宮崎	慎司
報徳二宮神社	権禰宜	長坂	倫旦

（協賛金納入時の役職、お名前にて掲載しております）



実行委員会の様子（コロナ禍前・コロナ禍中）

編集後記

「生児八十綿連うみのこのやそつづき」を主題として展開してまいりました当会創立七〇周年記念事業の集大成として会報「神奈川」創立七〇周年記念号を発行する運びとなりました。

先輩諸賢の絶え間ない情熱とご尽力により、脈々と受け継がれてきた当会の数多の活動とそれに伴う思いを後輩たちへしっかりと繋ぐべく、創立七〇周年の各記念事業を企画してまいりましたが、御存知の通り、世界中を震撼させたコロナ禍の影響は免れず、残念ながらいくつかの事業は中止もしくは次世代の会員たちへと託さざるを得ませんでした。

その様なか、この記念会報へは何が残せるかを考え、開催出来なかった記念事業の軌跡は勿論のこと、「生児八十綿連うみのこのやそつづき」の事業指針に沿うべく、歴代会長座談会を開き当会の歩んできた道のりを掲載させて頂きました。

振り返ってみますと、私は細かいことが苦手で、ふとしたことから青年会の役員となり深く携わるようになった当初、一番お役目を頂きたくないなと考えていたのが会計と広報でした。そんな私が、定年を迎える最後の年に記念会報の担当という大役を頂いたと知ったら、あの頃の私はどう思うでしょうか。しかしながら、コロナ禍によりなかなか集まることが難しい今日、このように当会の歴史などを後輩たちへと残す機会を与えて戴いたことへ感謝の念を抱いているところでもあります。

結びに、記念会報の発行に当たり、祝辞をお寄せ頂きました神奈川県神社庁前庁長 吉田茂穂様、神道青年全国協議会 小林慶直様をはじめ、座談会へのご臨席賜りました歴代会長の皆様方に、この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

記念会報担当副実行委員長 松 尾 寛 一

会報「神奈川」

創立七〇周年記念号

令和四年十月十五日発行

編集 創立七〇周年記念事業実行委員会
発行 神奈川県神道青年会

印刷 文明堂印刷株式会社

横浜市南区共進町三―五十四―一
佐藤ビル一F―B



神奈川県神道青年会